

II. 研究活動

1. 総合研究

科学衛星及び観測ロケットによる宇宙科学研究

我が国の宇宙観測事業は1955年東京大学生産技術研究所で始められたペンシルロケットの開発に端を発する。同事業は1964年に新設された東京大学宇宙航空研究所に引き継がれ、さらに17年後の1981年大学共同利用機関として発足した宇宙科学研究所がこれを引き継ぎ発展させてきた。2003年10月、宇宙3機関統合により独立行政法人宇宙航空研究開発機構が発足。宇宙科学研究所は科学衛星及び観測ロケットによる宇宙科学研究を担っている。

ペンシルロケットに端を発する我が国のロケットは急速に発展し、1957年から始まった国際地球観測年（IGY）では電離層の観測に応用されるに至った。1970年には我が国初の人工衛星「おおすみ」の打上げに成功。我が国は「おおすみ」の打上げから現在に至る36年間に29機の科学衛星、探査機を打ち上げてきた。1986年には国際ハレー彗星観測計画に参加し「さきがけ」、「すいせい」をハレー彗星と会合させることに成功し、我が国の宇宙科学が米国、ソ連（当時）、欧州と並んで世界の舞台で認められる契機を作った。ハレー彗星探査を機に開発されたM-3 S-II型ロケットはその後の我が国の科学衛星の質を格段に向上させた。例えば、1987年の「ぎんが」、1993年の「あすか」はX線天文学の分野で、1989年の「あけぼの」は極域現象の観測で、また1991年の「ようこう」は太陽物理学の分野でそれぞれ世界をリードする成果を上げ、我が国の宇宙科学の地位を確かなものにした。これらの実績を背景に、1992年には米国と共同で「GEOTAIL」を打ち上げ、1990年打上げの工学実験衛星「ひてん」で実証した二重月スウィングバイ技術を適用して磁気圏尾部の本格的観測を実現し大きな成果を上げた。また、1995年には、宇宙開発事業団、通産省（当時）と共同で開発した多目的宇宙実験用プラットフォーム（SFU）をH-II型ロケットで打ち上げ、赤外線による天文観測、宇宙工学実験等に大きな成果を上げ1996年にはスペースシャトルにより回収することに成功した。一方、月・惑星の研究グループからの強い要請もあって、さらに大型のロケットM-V型の開発が進められ、1997年にはM-V初号機によりスペースVLBI用の大型展開アンテナを搭載した「MUSES-A」（「はるか」）を軌道に上げ、初の宇宙VLBIの実現に成功した。翌、1998年には火星探査機「PLANET-B」（「のぞみ」）、2003年には小惑星サンプルリターンを担う「MUSES-C」（「はやぶさ」）を打ち上げ、さらには開発中の月周回衛星「SELENE」、金星探査機「PLANET-C」、水星探査機「BepiColombo」により、我が国の宇宙科学も月・惑星探査へと大きなステップを踏み出そうとしている。更に、M-Vロケットは天文衛星にも大きな前進をもたらし、X線分野の「ASTRO-E II」（「すざく」）、わが国初の本格的赤外線天文衛星「ASTRO-F」（「あかり」）、次期太陽観測衛星「SOLAR-B」（「ひので」）と世界の先端を走る科学衛星が打ち上げられた。残念ながら、2000年2月の「ASTRO-E」の軌道投入は失敗に終わり、期待に応える事が出来なかった。しかし、その後、軌道投入失敗の原因究明が直ちになされ、M-Vロケットの信頼性回復の努力が精力的に続けられてきた結果、2003年5月に野心的な工学実験探査機「はやぶさ」（「MUSES-C」）を成功裏に打ち上げることができた。

観測ロケット実験は衛星や探査機計画に比して迅速に観測を実現できる長所を持っている。この長所を生かして例年数機のロケット実験が実施されている。打ち上げ場は内之浦宇宙空間観測所のほかノルウェーのアンドーヤ実験場等も必要に応じて使用している。2000年12月には昼間側のカスポオーロラを中心を狙ってSS-520-2号機をスピッツベルゲン島ニューオルスンから打ち上げ、大きな科学成果を得ている。

我が国の宇宙科学事業は90にあまる大学・研究機関と500人を上回る研究者の主体的な参加に基礎を置いて発展して現在に至っている。科学観測計画は全国の宇宙科学研究者からの提案を宇宙理学委員会、宇宙工学委員会及び宇宙環境利用科学委員会で審議し決定する手順が取られている。各委員会は研究所内外それぞれ半数ずつの研究者からなる委員で構成されており、計画の審議のみならず、実行経過、成果についての評価も行われている。さらに、我が国の宇宙科学が適正な方向性をもって発展するよう宇宙科学の長期計画についても同委員会で適時検討が行われている。

「ASTRO-E」（「すざく」）には米国提供の検出器、「SOLAR-B」（「ひので」）にも米・英提供の検出器が搭載されている。「ASTRO-F」（「あかり」）のデータアーカイブについて韓国との協力が行われている。「すざく」においては、観測時間の約半分が日本、それ以外は米国提案あるいは日米共同提案の観測に割り当てられている。日本は、

50%の日本の占有時間を使って、米国を除く世界の研究者からの提案を受け付けており、特に欧州（ESA加盟国）については、日本枠の約1/6の観測時間をあらかじめ割当、ESAに提案の募集と審査もお願いしている。「PLANET-C」は金星探査において欧州宇宙機関（ESA）の「VENUS EXPRESS」との同時共同観測を予定している。また、欧州宇宙機関（ESA）との初めての大型国際協力により未知の惑星・水星を多角的・総合的に探査しようとする「BepiColombo」計画が始まっている。

現在、宇宙科学の分野において運用または開発中の主なプロジェクトの研究活動は以下の通りである。

(1) 運用中の科学衛星

①第12号科学衛星（EXOS-D）

極地方の夜空を彩るオーロラは、磁気圏と電離圏とを結び付けるメカニズムの一つとして重要であると考えられてきた。オーロラの発光に寄与しているのは数キロから数十キロ電子ボルトに加速された電子であるが、この加速のメカニズムの解明を目的に計画され打ち上げられたのが第12号衛星（EXOS-D、あけぼの）である。遠地点高度10,500km、近地点高度275km、軌道傾斜角75度の軌道に1989年2月に投入され現在まで18年余りにわたって観測を続けている。当初の主テーマであったオーロラ粒子の加速機構の解明に加え、極域からの重イオンの宇宙空間への流出、赤道上空に局在したプラズマ波動強度、プラズマ圏の構造、放射線帯粒子の研究等に重要な貢献をした。この衛星には磁場、電場、プラズマ計測関連の7個の計測器のほかにオーロラ撮像、放射線モニターが搭載されている。多数の大学の研究者、大学院学生がプロジェクトに参加して、衛星の運用、データ処理に当たっている。また、国立極地研究所は長年にわたり南極昭和基地の衛星受信設備を運用して貴重な南半球極域データの取得を行ってきたが、2002年度にて終了した。国外ではカナダの研究グループが参加しており、搭載機器の提供のほかにカナダ国内の衛星受信局におけるデータ受信を行って北半球での受信率の向上に貢献してきたが、2003年9月以降は特別キャンペーン対応に移行した。一方、ISTP計画の実現によりGEOTAIL衛星を始め多数の衛星が磁気圏の各所に配備されて来た。これらの衛星との共同観測を始め、日本も参加している北極圏のEISCATとの共同観測も精力的に進められており、今後もあけぼの衛星の重要な寄与が期待されている。

担当機関：06, 18, 26, 27, 28, 35, 48, 49, 50, 54, 59, 61, 62, 69, 75, 77, 79, 82, 83, 89, 91, 101,

223

②磁気圏観測衛星（GEOTAIL）

磁気圏観測衛星ジオテイル（GEOTAIL）は、1992年7月24日に米国フロリダ州ケープカナベラルからデルタ-IIロケットで打ち上げられた日米共同プロジェクトの衛星である。その研究目的は地球磁気圏尾部の構造とダイナミクスおよび磁気圏の高温プラズマの起源と加熱・加速過程を明らかにすることであり、特有の軌道計画が実行された。即ち、1994年11月までの2年余りの期間は、月との2重スウィングバイ技術などを駆使してアポジーが常に磁気圏尾部に来るように制御され、210 Reまでの広範な磁気圏尾部をくまなく探査した。その後、磁気圏サブストームなどの研究のため、アポジーを30 Reに下げて現在に至っている。なお、ペリジーは9-10 Reで、この近地球軌道は昼間側の磁気圏境界面や前面衝撃波とその上流域などの観測にも適したものになっている。

搭載されている観測装置としては日米双方から合計7個、即ち、磁場計測装置、電場計測装置、2組（日米各1組）のプラズマ計測装置、2組（日米各1組）の高エネルギー粒子計測装置およびプラズマ波動観測装置がある。日本側が主任研究者の観測装置にも部分的に米国NASAから提供されたものも含まれているので、観測装置の約1/3が米国製、残りの2/3が日本製である。さらに、日本製の観測装置にはヨーロッパ（ドイツ、ESA）提供のものも一部に含まれている。日本側の観測装置は、宇宙科学研究所を中心に、東京大学、京都大学、早稲田大学、立教大学、名古屋大学、金沢大学、富山県立大学、愛媛大学等の研究者の協力のもとに開発された。衛星運用やデータ解析には観測装置開発に携わったメンバー以外にも多数参加し、数々の研究成果が得られている。これまでに出版されたGEOTAIL関連の原著論文数は800編（外国人の筆頭著者も含む）を超えている。

打ち上げ後約14年を経過したが、(当初からの計画に従って)衛星の運用管制は宇宙科学研究本部が責任をもち、データ受信は日米双方で順調に行われている。米国JPL/DSNで受信されるデータ（搭載のデータレコーダーに

記録された24時間連続データ)はNASAゴダード宇宙飛行センターで一次処理され、そのKey Parameter Dataは世界の研究者に公開されている。又、高時間分解能のプラズマ及び磁場データは宇宙科学研究本部の科学衛星データベースシステム(DARTS)のホームページから一般公開されている。さらに、米国のウインド、ポーラーの両衛星、ESAのクラスター衛星等とのISTP共同観測も精力的に行われている。

担当機関：04, 06, 07, 18, 24, 25, 26, 27, 28, 35, 48, 49, 51, 54, 59, 61, 62, 69, 75, 79, 82, 83, 100, 101, 104, 169, 176, 178, 182, 184, 190, 196, 217, 218, 225, 228

③第20号科学衛星(MUSES-C)

「MUSES-C」は工学実験衛星シリーズの3機目として、今後の太陽系探査において重要となる太陽系天体からのサンプル回収ミッションに必要な技術の修得と実証を目的としており、2003年5月9日、M-V-5号機によって内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられ、「はやぶさ」と命名された。「はやぶさ」は、小惑星1998 SF 36(イトカワ Itokawa)が目標天体であり、太陽系探査機用主推進機関として電気推進系(運転時間が16,000時間を越えるイオン・エンジン・システム)を搭載し、自律航法(小惑星への接近・ランデブー・着陸における自律的誘導制御)、サンプリング技術(小惑星表面からの試料の採取、収納、密閉)、及び脱出速度以上の超高速による地球大気圏再突入技術実証等が具体的な実験目的である。

「はやぶさ」は、2005年9月12日にイトカワにランデブーすることに成功し、CCDカメラ、X線スペクトロメータ、赤外分光計、LIDAR等による小惑星のその場観測を実施することに成功した。また、2005年11月に5回にわたって表面での降下を試み、3回の接地と1回の着陸に成功した。特に、横方向の残留速度の精密な制御については、約1cm/秒の超高精度の航法・制御・誘導に成功した。超小型のロボット着陸機ミネルバは、小惑星の表面に着地させることはできなかったが、同機との交信やデータの受信は正常に行われ、機能は全て確認できた。「はやぶさ」は、2005年11月26日に正常に離陸を終えたところで燃料もれをおこし、その後7週間にわたり交信が不通になったが、2006年1月に再捕捉された。

その後、イオンエンジン用燃料であるキセノンガスを中和器から噴出したり、キセノンガスの節約を兼ねて太陽光の圧力を利用したりして、探査機の太陽指向の姿勢やスピン速度を制御する運用を続けた。2006年3月から4月にかけては、探査機内の揮発性ガスを放出するためのベークが行われた。4月から5月にかけては、イオンエンジンBとDの駆動試験が行われ、正常に動作することが確認された。2006年7月からは、バイパス回路経由でのバッテリー充電を行い、バッテリーの11セルのうち4セルが使えない状態にあるにもかかわらず、他の7セルの充電に成功した。そして、2007年1月には、探査機内の試料採取容器を地球帰還カプセルに搬送、収納し、外フタを密閉する運用を実施した。以上で、地球帰還への準備がすべて整ったことになり、2010年6月に地球へ帰還させるべく、運用が継続されているところである。

理学的な成果としては、イトカワ近傍での観測成果をまとめた最初の一連の論文が科学雑誌であるScience誌(2006年6月2日号)に特集号として掲載された。また、2006年7月12-14日には、第2回はやぶさ国際科学シンポジウムが東京大学にて開催された。この他、多くの国際学会で「はやぶさ」に関係した招待講演や研究発表が行われた。さらに、この計画によって持ち帰られる予定のサンプルの分配、分析、保管の体制と施設の建設が行われている。

「はやぶさ」プロジェクトの成果に対して、2006年5月にはInternational Space Development Conference (ISDC 2006)において、米国のNational Space SocietyからSpace Pioneer Awardを受賞した。また、第16回(2006年度)日本航空宇宙学会賞の技術賞も受賞した。さらに、宇宙科学本部で作成された『「はやぶさ」の大いなる挑戦!』のビデオが、第48回科学技術映像祭の科学技術部門で文部科学大臣賞を受賞した。

なお、「はやぶさ」は国内各大学、研究機関との協力のみならず、米国NASAとの密接な協力によって進められてきた。これには、NASA DSN(深宇宙局網)による追跡支援、再突入カプセルのNASA ARC(Amesリサーチセンター)における耐熱材料試験、各科学観測に関する日米協力等が含まれている。さらに再突入カプセルの回収場所として豪州のウーメラ地区が選ばれ、豪州との回収に関する協議が行われている。

担当機関：01, 06, 10, 11, 13, 23, 24, 27, 28, 38, 43, 46, 48, 49, 55, 58, 60, 62, 66, 69, 71, 74,

76, 77, 78, 79, 81, 82, 92, 102, 155, 181, 182, 184, 188, 195, 197, 198, 221, 227

④第23号科学衛星 (Astro-E II)

第23号科学衛星「Astro-E II」は、我が国5番目のX線天文衛星として、2005年7月10日にM-V-6号機によって成功裏に所定の軌道に投入され、「すざく」と命名された。「すざく」には、X線反射望遠鏡(XRT)の集光焦点面に置かれ、約0.2キロ電子ボルトから10キロ電子ボルトの軟X線領域において撮像分光を行うX線CCDカメラ(XIS)4台と、非撮像型でありながら約10キロ電子ボルトから600キロ電子ボルトの帯域で非常に高い感度で観測を行うことができる硬X線検出器(HXD)とが搭載されており、3桁半もの広い帯域を同時に観測することが可能である。XISには表面入射型と裏面入射型の2種類のCCDが採用されており、特に裏面入射型CCDは従来のX線CCDに比べて、1キロ電子ボルト以下の低エネルギー帯でも大きな有効面積と優れた検出器応答を持つため、炭素、窒素、酸素イオンなどからの輝線を高い感度で捉えることが出来る。XIS、HXDと同時に搭載されているX線マイクロカロリメーター(XRS)については、60 mKという宇宙空間における最低温度の達成と、較正用線源を用いた7電子ボルトという過去最高の分光性能を確認した後に、液体ヘリウムの消失によって科学的観測を行うことは出来なくなったが、その後も引き続き低温冷却技術の衛星軌道上における耐久実証運用を続けている。

「すざく」は、科学作業グループ(SWG)で選定された天体リストに基づいた科学観測を2005年9月から開始した。SWGは、「すざく」の開発に関わった日米の研究者を中心に、世界の著名な研究者をアドバイザーとして加えて構成されている。SWGによる観測は2006年3月末まで続けられ、この間に「すざく」の基本性能の確認や検出器の較正、解析ソフトの整備などが行われた。この初期観測により、硬X線検出器の過去最高の感度、および、X線CCDカメラの軟X線領域での優れた特性が確認された。2006年4月からは第一回の国際公募観測において採択された観測提案の観測を順次行うとともに、天体の突発現象などに応じてTOO観測を実施した。この間の2006年11月に、4台あるXISの検出器のうち1台が、撮像領域で大量の漏れ電荷が発生するようになり、観測不能になったが、残り3台とHXDは正常に動作を続けている。2006年12月には、京都で国際会議“The Extreme Universe in the Suzaku Era”を開催し、国内外400名近くの研究者を集めて「すざく」の初期科学的成果の発表を行い、これらの成果をまとめて日本天文学会の欧文研究報告誌の特集号として刊行した。また、これらと並行して、2007年4月から実施される国際公募観測の観測提案の募集が日米欧で行われた。この公募には、3地域を始めとする全世界から合計で331件の応募があり、競争率は3-4倍に達した。選考結果は2007年3月に公表され、4月から1年間にわたって観測するX線天体が決定された。

「すざく」搭載観測装置の開発は、20を越える国内の研究機関・大学と米国の3つの研究機関・大学が協力して行った。また、「すざく」の運用、搭載機器の較正、および解析ソフトの整備も、ほぼ同数の研究機関・大学の協力のもとで行われている。

担当機関：02, 05, 06, 07, 11, 21, 28, 32, 37, 41, 57, 62, 69, 71, 73, 82, 84, 85, 88, 94, 100, 101, 188, 196, 236

⑤小型衛星 (INDEX)

小型衛星INDEXは、先進的な小型衛星技術の軌道上実証と、オーロラ現象の理学観測の目的をもった重量70kgの小型3軸姿勢安定衛星である。2005年8月24日に、ロシアのドニエブルロケットによりバイコヌール宇宙基地より打上げられた。現在までのところすべての搭載機器が順調に稼動している。

近年の科学衛星計画は長期化し、予算規模が大きくなり、打上げ頻度が確保できなくなっている。このため、新規工学技術や理学観測の軌道上実証や実施が、困難になってきている。この弊害を改めるために、低コストで、比較的短期間で実施できる、先進的な小型衛星を用いて工学、理学研究を行なうことが必要である。

INDEX衛星は、このような目的をもった先進的な小型衛星であり、70kgの重量の中に3軸姿勢安定機能を実現している。高速プロセッサによる統合化衛星制御、薄膜反射器を用いた太陽集光方パドル、リチウムイオン電池の搭載、超小型GPS受信機、可変放射率素子、小型高性能な光ファイバージャイロなどの軌道上試験を行う事を目的としている。衛星メーカーに依存せずに衛星開発ができる体制を整備した結果、衛星開発費は約4億円にすぎない。

軌道上の成果としては、統合化衛星制御系は宇宙放射線の影響によるビット誤りがあってもそれを多数決論理により修正した予期通りの動作を行なっている。姿勢制御系は、軌道上で 0.05° の姿勢指向制御を実現できている。これは、100 kg以下の小型衛星としては類をみない高精度な姿勢制御性能である。電源系及び超小型GPS受信機も正常に軌道上で機能している。

理学観測ミッションとして理学委員会に公募選定された「オーロラの微細構造の観測」は、オーロラを3波長のカメラで高速撮像し、同時にオーロラを引き起こす電子、イオンの粒子計測を高い時間分解能にて実施する科学観測を行なうものである。これらの観測ミッションは軌道上にて、極域上空のオーロラの3色画像を時間分解能8Hz、空間分解能1km程度で動画撮像できている。これらのデータによりダイナミックに変化するオーロラの発火現象の成因に迫るべくデータ解析を行なっている。

担当機関：06, 52, 53 (宇宙科学専攻), 66, 73, 77, 95, 101

⑥第21号科学衛星 (ASTRO-F)

第21号科学衛星「ASTRO-F」は、我が国で初めての天体赤外線観測衛星である。「ASTRO-F」は2006年2月22日午前6時28分に、内之浦宇宙空間観測所からM-V-8号機により打上げられ、「あかり」と命名された。

「あかり」は液体ヘリウムで冷却された有効径68.5cmの望遠鏡を搭載し、焦点部に取付けた2つの観測装置(近・中間赤外線カメラと遠赤外線サーベイヤー)により、広い波長域で全天にわたる赤外線サーベイ観測、あるいは天文学的に重要な天域・天体の系統的観測を行う。これにより、宇宙の初めに星や銀河がどのように生まれ進化してきたのか、また銀河系の中で星や惑星系が誕生する過程など、天文学の最重要課題の解明を目指す。このミッション目的達成のため、上記カメラでは大規模赤外線検出器アレイを用い、また遠赤外域でも国内で開発された高感度検出器の多素子アレイを用いることにより、従来のサーベイ観測に比べて圧倒的に高い解像度と広い観測波長域を実現している。さらにプリズムやグリズム、あるいはフーリエ分光器による分光機能も備えている。極低温冷却系には2段スターリング冷凍機を採用することによって搭載液体ヘリウム量の削減をはかり、大口径望遠鏡を搭載しつつも衛星の軽量化を達成した。衛星、望遠鏡、2つの観測装置は、JAXA宇宙科学研究本部を中心に、名古屋大学、東京大学、自然科学研究機構・国立天文台等の協力により開発された。また遠赤外線検出器開発では情報通信研究機構の協力を得ている。データ受信とデータ解析は、欧州宇宙機構(ESA)、英国、オランダ、韓国との国際協力により進められている。

「あかり」は2006年4月に望遠鏡の蓋を開け、5月に観測を開始した。観測は順調に進んでおり、2006年度末の時点で、サーベイに関しては全天の約87%について観測を完了した。またこれに加えて、太陽系天体から宇宙の果ての銀河まで、さまざまな天体の詳細観測を実施している。

担当機関：06, 43, 49, 58, 68, 69, 82, 168, 173, 208, 215, 226, 233

⑦第22号科学衛星 (SOLAR-B)

第22号科学衛星「SOLAR-B」は我が国3機目の太陽観測衛星である。1999年度より開発研究に着手し、2005年度から最終的に仕上がったフライトコンポーネントを衛星として組み立て調整し、その後2006年度前半にかけて衛星システムレベルでの環境試験(振動・衝撃・熱真空)、電気機能・性能試験などを実施した。「SOLAR-B」は、2006年9月23日午前6時36分(日本標準時)に内之浦宇宙空間観測所よりM-Vロケット7号機で打上げられ、「ひので」と命名された。

この衛星は、太陽コロナの成因すなわち加熱機構を解明するとともに、「ひのとり」(ASTRO-A)及び「ようこう」(SOLAR-A)が明らかにした太陽コロナの活発な磁気活動現象を、これを駆動する太陽内部の磁場・速度場の生成と浮上にまで遡って理解し、もって天体磁気活動・宇宙プラズマの振る舞いの素過程を明らかにすることを目的とする。また、太陽活動が太陽地球間宇宙環境にどのように影響を及ぼしているかを総合的に理解する目的で行われている「宇宙天気」研究において、活動の源を探ることによって研究進展に大きく寄与するものと期待される。本衛星には、可視光域で光球(太陽表面)の磁場・速度場を角分解能 $0.2 - 0.3$ 秒角でベクトルの的に精密測定する可視光・磁場望遠鏡、角分解能1秒角でコロナを観測するX線望遠鏡、コロナと光球の境界層の分光プラズマ診断

を行う極紫外線撮像分光装置、の3つの高性能望遠鏡が搭載され、これらからのデータを総合的に解析して太陽内部とコロナとを一体のシステムとして研究することを可能とする。3つの望遠鏡はいずれも世界最先端の観測装置であり、日米英の国際協力で製作された。すなわち、可視光・磁場望遠鏡では望遠鏡部を日本側が、焦点面検出器を米国NASAが担当した。X線望遠鏡の場合はNASAが望遠鏡部を、日本側がCCDカメラを担当した。また、極紫外線撮像分光装置では、NASAが光学部品及びメカ部品を提供し、英国PPARCが装置全般の組み上げ、日本側は対衛星インターフェースを担当した。また、衛星運用には、観測装置製作チームの参加に加え、欧州宇宙機関(ESA)がノルウェーのスパルバード局を提供する形で参加し、大規模な国際共同事業となっている。国内ではJAXAとの研究協力協定(覚え書き)を締結して本計画に参加している国立天文台がJAXA宇宙科学研究本部と共に中心的役割をし、京都大学、東京大学をはじめ国内研究機関・大学に所属する全国の太陽物理学研究者や関連研究分野研究者の協力のもとで科学運用や解析研究が進められている。

担当機関：06, 08, 15, 28, 29, 43, 44, 49, 50, 56, 69, 83, 96, 101, 168, 172, 187, 193, 194, 196, 197, 199, 203, 206, 210, 231

(2) 開発中の科学衛星

①第17号科学衛星(LUNAR-A)

LUNAR-Aについては、2004年に実施された総点検の結果、2つの改良点が指摘され、その対策に3年程度かかる見通しから、当面ペネトレータの完成に集中し、プロジェクトに関しては、それまでの技術的判断及びプロジェクト運営に関する総括を行った上で、JAXAとしてプロジェクトを見直し、今後の対応策を立案する事としていた。そして2006年6月に実施したペネトレータの貫入試験で、総点検で指摘された2つの改良点への対策の確認が終わり、ペネトレータの耐衝撃性についてもほぼ確認が取れ、最終形態による貫入試験を2007年度に実施すれば、ペネトレータ技術は完成する見込みという所まで到達した。

この間、プロジェクトの総括に関しては、外部委員等による検討委員会等による評価が行われ厳しい御指摘をいただき、又有益な御提言をいただいた。これ等の評価で共通していたのは、ペネトレータを利用した月惑星内部探査方式の意義が現時点でも高い事及びその耐衝撃技術水準が世界的に高いという事であった。これ等の評価を受けJAXAでは今後の対応策を検討し、次の4案のトレードオフを実施した。

- 第1案：母船を改修し、完成見込みのペネトレータを搭載して打上げる。
- 第2案：母船を再製作して完成見込みのペネトレータを搭載して打上げる。
- 第3案：JAXAが行う今後の月・惑星探査の中でペネトレータを搭載して打上げる。
- 第4案：海外の衛星／宇宙機にペネトレータを搭載して打上げる。

この4案に関しては、最終的にチーフエンジニアオフィスの評価が行われ、JAXAとしてはLUNAR-Aプロジェクトは中止して、第3案・第4案を採るべき事、又、母船は、一部機器は研究開発へ適用し、構体は検討中の次期小型固体ロケット又はGX初号機の環境計測用ペイロードへの適用を考えるという結論に至った。この方針は、今年1月宇宙開発委員会推進部会で審議され、2月7日の委員会で承認された。審議の詳細は、宇宙開発委員会のHPを御参照されたい。

LUNAR-Aプロジェクトを、当初の目標を達成できていない状態で中止せざるを得なくなった事は真に残念で遺憾な事と考えている。さて、最近ロシアから、LUNAR-A方式のままのペネトレータをロシアの探査機で打上げたという話があり、調整が始まっている。又、その他の国からも打診がある。

担当機関：06, 15, 30, 34, 62, 82, 91, 207, 220, 235

②月周回衛星(SELENE)

月周回衛星(SELENE: SELEnological and ENgineering Explorer)は、月の起源と進化を探り、ひいては地球の起源・進化の解明につながる「月の科学」の発展を図るため、また地球外天体への人類の宇宙活動の拡がりへ向けた第一歩として「月の利用可能性の調査」を具体的かつ定量的に行うため月面全域について観測データを取得する。また月探査を体系的、継続的に進める上で必要となる基盤技術の開発、蓄積を行うことを目的とする衛星計画である。

「SELENE」は、旧宇宙開発事業団と旧宇宙科学研究所が共同で進めていたプロジェクトであり、平成15年10月の3機関統合により、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部の所掌となった。現在は、平成19年度（2007年度）にH-IIAロケットにより打ち上げる計画で開発を進めている。

「SELENE」の宇宙機は、高度100kmの極・円軌道を周回する主衛星と、二つの小型衛星（リレー衛星、VRAD衛星と呼称）から構成される。主衛星に搭載された観測機器によって月面の元素分布、地質・鉱物分布、地形・表層構造、磁場・プラズマ・高エネルギー粒子等の月面環境についてこれまでの諸外国の月探査計画がなしえなかった月全域にわたる高精度観測を行うとともに、月軌道からの地球電磁圏の撮像観測を行う。また、主衛星、リレー衛星及び地上局間の4wayレンジングにより、世界で初めて月の裏側の重力場の分布を計測する。更に、リレー衛星及びVRAD衛星に搭載される電波源からの電波を相対VLBI（超長基線干渉法）処理することにより、月の重力場の精度の向上を目指す。

月探査の基盤技術開発の第1段階として、月周回軌道への投入、月周回軌道上での高精度月指向三軸姿勢・軌道制御技術、地球周回衛星等に比べて過酷な熱環境における衛星の熱制御技術等を実証する。

また、搭載されるハイビジョンカメラにより「地球の出」等の動画像の撮影・放映等を行い、月・惑星探査の普及・啓発に資する。

2006年度に衛星システムのプロトフライト試験を終了、種子島宇宙センターへ輸送した。

担当機関：01, 03, 06, 07, 09, 11, 15, 17, 19, 20, 24, 26, 28, 31, 34, 36, 37, 39, 40, 42, 46, 48, 49, 51, 55, 62, 65, 66, 67, 69, 77, 82, 83, 87, 89, 90, 91, 93, 100, 101, 102, 103, 104, 105

③第24号科学衛星（PLANET-C）

第24号科学衛星「PLANET-C」は世界で初めて金星の大気力学を詳細に調べる探査計画である。探査機は赤外から紫外までの多チャンネルの5台のカメラと電波遮蔽観測用の超高安定発振器を搭載し、地球の気象衛星のように周回軌道上から主に撮像観測によって金星の大気力学を探る。その成果は単に惑星の理解にとどまらず、普遍的な惑星の気象学の確立のための重要な一歩となるものである。2台の近赤外カメラが金星の雲層を透過する近赤外光で下層大気の雲や微量気体分布の変動を観測するのに加えて、紫外カメラが雲頂付近の紫外線吸収物質の分布を、中間赤外カメラが雲頂温度の分布をマッピングする。また雷・大気光カメラが雷放電に伴う発光や高層大気の化学的発光を観測する。このように異なる高度での大気変動を同時に連続観測することによって時間的・空間的に密な4次元気象情報が得られる。探査機の打上げは2010年頃に予定している。

前年度に引き続き2006年度も重量480kg（乾燥含む）の3軸安定型衛星のプロトタイプモデルの設計および試作を行った。特に今年度は打上げロケットをM-VからH-IIAに変更した事に伴うインタフェース条件の修正についての検討を行なった。太陽に近い金星周回軌道では地球近傍に比べて太陽光による熱入力が大きく、今回のように赤外線による観測を行う衛星にとって厳しい環境となる。このため、特に熱入力や各機器の電力消費の低減を検討し、詳細な熱解析により熱的・構造的に実現できることを確認した。衛星サブシステムの多くは「MUSES-C」など過去の衛星での実績を踏襲するが、新規開発品である通信系のデジタルトランスポンダ、TWT方式高性能パワーアンプ、ラジアルラインスロットアレイアンテナ、超広角レンズアンテナ採用、電源系の大容量リチウムイオン電池、高性能3接合太陽電池セル、観測機器の近赤外カメラなど既存の衛星サブシステムと異なる部分については仕様と設計の検討を入念に行ない、また必要なものについては試作を行った。ミッション系の各カメラの基本設計とEMモデルの試作は完了し、コマンドやデータ伝送のインタフェースも基本方針が固まった。部品レベルの放射線試験や振動試験もクリティカルなものについては完了している。

2006年8月に基本設計確認会を実施し、懸念される開発課題がない事、フライトモデル製作へ移行する事が妥当との評価を得た。これにより、後期にはフライトモデル詳細設計に着手した。

「PLANET-C」搭載観測装置の開発は全国の8つの大学・研究機関の参加のもとに進められている。また、この探査計画は世界における金星研究の一翼を担う立場から、ESAの「Venus Express」など他国の計画と相補的になるように国際的な研究者コミュニティでの議論に基づき最適化されてきた。特に「Venus Express」チームとの間では双方のプロジェクト会議などで繰り返し協議の場を持ち、計画策定や装置開発での協力、共同研究者の相互乗り

入れ、地上局の支援などを進めている。

担当機関：06, 12, 36, 38, 43, 48, 67, 68, 69, 77, 91, 100, 101, 190

④国際共同水星探査計画 (BepiColombo)

「ベピ・コロombo (BepiColombo)」計画は、欧州宇宙機関 (以下、ESA) との共同によって、惑星の磁場・磁気圏・内部・表層を初めて多角的・総合的に観測しようとするプロジェクトである。固有磁場と磁気圏を持つ地球型惑星は地球と水星だけであり、水星の詳細探査は「初の惑星磁場・磁気圏の詳細比較」の機会となる。「惑星の磁場・磁気圏の普遍性と特異性」の知見に大きな飛躍をもたらすことが期待される。また、磁場の存在と関係すると見られる巨大な中心核に代表される水星の特異な内部・表層の全球観測は、太陽系形成、特に「地球型惑星の起源と進化」の解明に貢献することが期待される。本計画は、上記の目標に最適化された2つの周回探査機、すなわちESAが担当する表面・内部の観測に最適化された水星表面探査機 Mercury Planetary Orbiter [MPO : 3軸制御, 低高度極軌道] と、JAXAが担当する磁場・磁気圏の観測に最適化された水星磁気圏探査機 Mercury Magnetospheric Orbiter [MMO : スピン制御, 楕円極軌道] から構成される。両探査機は、一体で「ソユーズ・フレガート2B」ロケットで2013年に打ち上げられ、水星へ伴って旅をする。2019年の水星到達後に分離し、協力して観測活動を行う。

2006年度は昨年度に引き続き、日本側の参加がある機器の設計・試作・試験等を実施してきた。また、「BepiColombo 科学ワーキングチーム (Bepi-SWT)」の会合が定期的に開かれ、探査計画の立案・実施に関わる全ての事象についてこの会合において議論、決定した。

定期的に設計会議を開催し、衛星の設計に関する議論を行った。また、衛星システム (基本文書作成, 品質保証計画, 対ESAモジュールI/F, MMO探査機詳細仕様など)、機械 (分離機構など)、熱 (熱数学モデル作成・解析など)、電気 (電源など)、通信機器 (HGA・MGA・XPA・トランスポンダなど設計)、推進系 (熱検討など)、DH系 (DMCなど) の詳細検討、設計および一部の試作をおこなってきた。「MMO探査機の基本仕様決定」、「対ESA I/F」、および全体設計、リソース、運用計画、等にインパクトを有する技術要素に重点を置き、機械設計、熱設計、試験および運用法式、システム基本文書の作成、安全信頼性の検討・試作・試験等を進めた。

日欧共同ミッションに必要な各種枠組み・文書整備をESA-JAXA間で進めてきた。2004年10月に締結されたLOA (Letter of Agreement) の有効期限 (2006年末) はさらに6ヶ月延長し、2007年4月のMoU締結に向けた作業を行った。ESA側とは、BepiColombo-MMO間のI/F文書の確立、品質保証の基準・方法、相互の開発スケジュール調整など、多岐にわたる事項の検討・決定を実施してきた。また、ESA側のプライムメーカが決定し、キックオフ会議が2007年1月に開催された。

担当機関：01, 06, 07, 09, 18, 19, 20, 23, 24, 25, 26, 28, 31, 34, 36, 39, 40, 42, 43, 46, 48, 49, 50, 53, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 69, 74, 75, 77, 79, 80, 82, 83, 89, 91, 93, 100, 101, 102, 104, 157, 159, 162, 164, 165, 167, 168, 169, 170, 173, 174, 175, 176, 178, 180, 184, 186, 189, 190, 194, 200, 204, 206, 212, 213, 218, 222, 231, 232, BIRA-IASB, CNR-IFSI, IWF, MPS

(3) 科学衛星打ち上げロケット及び観測ロケットの研究

1955年以来東京大学生産技術研究所で行われていた観測ロケットの研究開発と、これによる宇宙観測は、1964年東京大学宇宙航空研究所に移され、その後科学衛星と大気球の計画を加えた宇宙観測特別事業として各種専門委員会による研究・開発の計画立案と実施により多大の成果を挙げて来た。さらに、同事業は、1981年東京大学宇宙航空研究所を発展的に改組して発足した文部省直轄の宇宙科学研究所に引き継がれた。2003年10月1日の宇宙3機関統合に伴い、鹿児島宇宙空間観測所 (KSC) は鹿児島宇宙センター・内之浦宇宙空間観測所 (USC)、能代ロケット実験所 (NTC) は宇宙推進技術共同センター・能代多目的実験場 (NTC) へと管理替えとなった。

旧宇宙科学研究所において開発されたミューロケットは逐次改良を重ねつつ、ほぼ年1機の科学衛星打ち上げを通じて、宇宙科学研究の支柱となってきた。USC (旧KSC) におけるロケットの打ち上げ実験は、漁業問題により、1967年4月から約1年半にわたる休止期間があったが、その後、夏期 (8, 9月) 及び冬期 (1, 2月) の2期に行

われてきた。1997年度以降打ち上げ期間の拡大が図られた。

1990年度からは、新世代ミューロケット M-V 型の研究開発が開始された。M-V 型は、M-3SII までの逐次改良による性能向上と異なり、1990 年中期以降における科学探査の要請に答えるべく、全段新規設計になるより大規模の新機体であった。

M-V 型は、補助ブースタを廃した純然たる 3 段式固体ロケットで、直径 2.5 m、全長 31 m、全備重量は 139 トンと M-3SII 型の約 2 倍、その衛星打上げ能力は低地球軌道に約 1.8 トンに達する。M-V-1 号機の飛しょう実験は、スペース VLBI 実験衛星である第 16 号科学衛星「はるか」(「MUSES-B」) を搭載して、1997 年 2 月 12 日に成功裡に行われた。1998 年 7 月 4 日には、M-V-3 号機によって火星探査機である第 18 号科学衛星「のぞみ」(「PLANET-B」) を打ち上げ、同年 12 月 20 日火星遷移軌道に投入した。また、2000 年 2 月 10 日 X 線天文衛星である第 19 号科学衛星「ASTRO-E」を搭載した M-V-4 号機を打ち上げたが、第 1 段ロケットに異常を生じたため、衛星を軌道に乗せることができなかった。また 5 号機は 2003 年 5 月 9 日に小惑星探査機である第 20 号科学衛星「はやぶさ」(「MUSES-C」) を打ち上げた。失われた「ASTRO-E」に代わる X 線天文衛星としての「すざく」(「ASTRO-EII」) は、6 号機によって打ち上げた。(2005 年 7 月)。2006 年 2 月 22 日には、赤外天文衛星である第 21 号科学衛星「あかり」(「ASTRO-F」) を 8 号機により打ち上げた。さらに、太陽観測衛星である第 22 号科学衛星「SOLAR-B」(「ひので」) を 7 号機より打ち上げた。M-V シリーズのロケットは、「ひので」の打ち上げを最後とし、新しい固体ロケットの開発を検討している。

なお、統合に伴い、M-V ロケットは宇宙基幹システム本部の下で、M-V プロジェクトチームが管理・打ち上げ・運用を行ってきた。

一方、観測ロケットの分野においては、単段式の S-310 (最高高度約 150 km)、S-520 (最高高度約 300 km) の 2 機種が活躍している。S-520 には精密姿勢制御装置内蔵回収部が搭載可能で、姿勢制御が必要な天文観測にも用いられる。なお、南極基地からは S-310 が、ノルウエーのアンドーヤ基地からも S-310、S-520 が打ち上げられている。さらに 1997 年度には高度 1,000 km への到達能力を有する 2 段式観測ロケット SS-520 が完成、1998 年 2 月の 1 号機の打ち上げ成功に続き、2000 年 12 月にはノルウエーのスピッツベルゲン基地から 2 号機を打ち上げ、高度約 1,000 km の飛翔及び観測に成功した。なお気象観測ロケットとして長年活躍してきた MT-135 は 2000 年 9 月の 72、73 号機 2 機の打ち上げを以て引退をした。2004 年 8 月 9 日に、ソーラーセール展開実験を目的とした S-310-34 号機を内之浦 (USC) から打ち上げ、実験に成功した。同年 12 月 13 日には、ノルウエーのスピッツベルゲン基地から、熱圏下部のオーロラに伴う大気現象の観測を目的に S-310-35 号機を打ち上げ、観測に成功した。また、2006 年 1 月 22 日にアレイアンテナの構成実験を主目的とした S-310-36 号機を内之浦 (USC) から打ち上げ、実験に成功した。

観測ロケット

ロケット	直径 (mm)	長さ (m)	重量 (kg)	段数 (kg)	観測機器※1	高度 (km)
S-310	310	7.1	700	1	70	190
S-520	520	8.0	2100	1	70/150	430/350
SS-520	520	9.65	2600	2	30/60	1000/800

※1：ノーズコーン含む

科学衛星打ち上げ用ロケット

ロケット	直径 (mm)	長さ (m)	重量 (ton)	段数 (kg)	打上げ能力
M-V	2500	30.8	140.4	3	1850

2006年度の観測ロケット実験

ロケット	発射年月日 時分	到達高度 (km)	目的	担当機関	備考
S-310-37	19.1.16 11:20	138	下部電離圏の高温度層 生成メカニズムの解明	06	内之浦宇宙 空間観測所

(4) 大気球による科学観測

大気球を用いた科学観測事業は、1966年に東京大学宇宙航空研究所に気球工学部門が設立され、ロケット、人工衛星と並ぶ宇宙観測事業として活動を開始し、1981年の宇宙科学研究所への改組、2003年の宇宙航空研究開発機構への統合後も引き続き実施している。当初は茨城県大洋村、福島県原ノ町より放球していたが、1971年に岩手県気仙郡三陸町（現 岩手県大船渡市三陸町）に恒久的な気球実験基地を開設し、以後ここで定常的に気球実験を進め、今日までに400機以上の大気球を放球している。同時に、アメリカ、インド、オーストラリア、インドネシア、ブラジル、ノルウェー、カナダ、ロシア等での海外気球実験を併せて推進してきた。また、鹿児島県肝属郡内之浦町（現 鹿児島県肝属郡肝付町）から中国上海・南京方面に気球を飛翔させる大洋横断気球実験や、国立極地研究所との協力による南極昭和基地からの放球による南極周回気球実験も行っている。

2006年度の大気球実験は、表1、表2に示すように2006年5月18日から6月15日に第1次実験、8月17日から9月15日に第2次実験を三陸大気球観測所で実施した。各期の放球機数はそれぞれ5機と6機であった。科学観測としては、高エネルギー電子・ガンマ線観測、成層圏クライオサンプリング、かに星雲からの偏光硬X線観測、スプライト・雷の光学及び電波観測、宇宙拡散・大気ガンマ線観測、サブミリ波によるHO₂の日変化観測であり、全ての観測は順調に行われ多くの成果をあげた。工学実験としては、無重力実験システムの動作試験、圧力気球の飛翔性能試験（2機）、ソーラーセイルの展開試験、薄膜型高高度気球の飛翔性能試験が行われた。また、2005年度に引き続きブラジル国立宇宙研究所（INPE）との学術協定に基づく日伯共同気球実験が表3のように2006年10月29日から11月25日に実施され、硬X線撮像望遠鏡観測を目的として大気球1機が放球された。長さ8m、重量1.2トンのX線望遠鏡を搭載したB500型気球はサンパウロ州カシュエラパウリスタより放球され天体観測を実施したが、その後の予期せぬ強い北風によって気球が大西洋上に流され、観測器の回収ができなかった。

表1 2006年度第1次気球実験飛翔結果

放球日	気球名	観測項目	高度	飛翔時間	担当機関	備考
5月27日	B200-6	無重力実験システムの動作試験	41.2km	4時間10分	06, 25	回収
5月31日	B100-14	高エネルギー電子・ガンマ線観測	36.0km	6時間20分	06, 16, 47, 98, 100, 103	回収
6月3日	B100-15	成層圏クライオサンプリング	35.2km	6時間30分	06, 46, 61, 68, 76, 81, 90, 92	回収
6月8日	B15-87	飛翔性能試験	29.2km	4時間30分	06	回収
6月13日	B150-7	かに星雲からの偏光硬X線観測	37.8km	12時間05分	06, 11, 96, 99	回収

表2 2006年度第2次気球実験飛翔結果

放球日	気球名	観測項目	高度	飛翔時間	担当機関	備考
8月25日	B5-134	スプライト・雷の光学及び電波観測	36.2km	6時間15分	76	回収
8月30日	B200-7	ソーラーセイルの展開試験	37.0km	4時間9分	02, 06, 65, 70	回収
9月1日	B100-16	宇宙拡散・大気ガンマ線観測	35.0km	7時間38分	27	回収
9月2日	B15-88	飛翔性能試験	25.5km	2時間8分	06	回収
9月4日	B200-8	サブミリ波によるHO ₂ の日変化観測	37.9km	7時間57分	06, 46, 48, 68, 76	回収
9月13日	BVT60-2	飛翔性能試験	15.6km	1時間52分	06	回収

表3 2006年度日伯共同気球実験飛翔結果

放球日	気球名	観測項目	高度	飛翔時間	担当機関	備考
11月19日	BJ500-1	硬X線撮像望遠鏡観測	37.9km	11時間30分	06, 11, 81, 177	-

担当機関

1	会津大学コンピューター理工学部	44	自然科学研究機構国立天文台野辺山太陽電波観測所
2	青山学院大学理工学部	45	自然科学研究機構国立天文台乗鞍コロナ観測所
3	秋田大学工学部	46	自然科学研究機構国立天文台水沢観測所
4	茨城大学	47	芝浦工業大学システム工学部
5	岩手大学	48	情報・システム研究機構国立極地研究所
6	宇宙航空研究開発機構	49	情報通信研究機構
7	愛媛大学	50	情報通信研究機構平磯太陽観測センター
8	大阪学院大学	51	信州大学
9	大阪市立大学工学部	52	創価大学工学部
10	大阪大学工学部	53	総合研究大学院大学
11	大阪大学大学院理学研究科・理学部	54	玉川大学
12	大阪府立大学	55	千葉工業大学
13	岡山大学固体地球研究センター	56	千葉大学
14	岡山大学理学部	57	中央大学
15	海洋研究開発機構	58	筑波大学
16	鹿児島大学	59	電気通信大学
17	神奈川大学工学部	60	東海大学工学部
18	金沢大学工学部	61	東海大学航空宇宙学科
19	金沢大学自然科学研究科	62	東京工業大学理工学研究科
20	金沢大学総合メディア基盤センター	63	東京工芸大学
21	金沢大学理学部	64	東京水産大学
22	かわべ天文公園	65	東京大学地震研究所
23	九州大学工学部	66	東京大学大学院工学系研究科・工学部
24	九州大学理学部	67	東京大学大学院新領域創成科学研究科
25	京都産業大学	68	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
26	京都大学生存圏研究所	69	東京大学大学院理学系研究科・理学部
27	京都大学大学院工学研究科・工学部	70	東京電機大学
28	京都大学大学院理学研究科・理学部	71	東京都立大学
29	京都大学飛騨天文台	72	東京薬科大学
30	京都大学防災研究所	73	東京理科大学
31	熊本大学	74	東邦学園大学
32	工学院大学	75	東北工業大学
33	高知学園短期大学	76	東北大学工学研究科・工学部
34	高知大学理学部	77	東北大学理学研究科・理学部
35	神戸大学工学部	78	東北大学流体科学研究所
36	神戸大学自然科学研究科	79	富山県立大学
37	神戸大学発達科学部	80	富山大学
38	神戸大学理学部	81	名古屋大学大学院工学研究科・工学部
39	国立環境研究所	82	名古屋大学大学院理学研究科・理学部
40	埼玉県立大学	83	名古屋大学太陽地球環境研究所
41	埼玉大学	84	日本大学
42	産業技術総合研究所		
43	自然科学研究機構国立天文台		

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 85 | 日本福祉大学 | 168 | European Space Agency (ESA) |
| 86 | 日本分析センター | 169 | European Space Research and Technology Center |
| 87 | 日本放送協会 (NHK) | 170 | Finnish Meteorological Institute |
| 88 | 広島大学 | 171 | Hartebeesthoek Radio Astronomy Observatory |
| 89 | 福井工業大学工学部 | 172 | High Altitude Observatory |
| 90 | 放射線医学総合研究所 | 173 | Imperial College London |
| 91 | 北海道大学 | 174 | Institut d Astrophysique de Paris CNRS |
| 92 | 北海道大学低温科学研究所 | 175 | Institut fur Weltraumforschung |
| 93 | 宮城教育大学 | 176 | Institute for Space Research of the Russian Academy of Science |
| 94 | 宮崎大学工学部 | 177 | Instituto Nacional de Pesquisas Espaciais, Brazil |
| 95 | 武蔵工業大学工学部 | 178 | International Space Science Institute |
| 96 | 明星大学 | 179 | Istituto di Radioastronomia |
| 97 | 山形大学理学部 | 180 | Istituto ed Osservatorio Astronomico di Palermo |
| 98 | 横浜国立大学工学部 | 181 | Ithaca University |
| 99 | 横浜市立大学 | 182 | Jet Propulsion Laboratory |
| 100 | 理化学研究所 | 183 | Jodrell Bank Observatory, University of Manchester |
| 101 | 立教大学理学部 | 184 | Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory |
| 102 | リモートセンシング技術センター | 185 | Joint Institute for VLBI in Europe |
| 103 | 惑星地質研究会 | 186 | Kungliga Tekniska Hogskolan |
| 104 | 早稲田大学理工学総合研究センター | 187 | Lockheed Martin Solar and Astrophysics Laboratory |
| 105 | 早稲田大学理工学部 | 188 | Massachusetts Institute of Technology |
| 151 | Arecibo Observatory, National Astronomy and Ionosphere Center | 189 | Max Planck Institute for Solar System Research |
| 152 | Astro Space Center, Lebedev Physical Institute | 190 | Max-Planck-Institut |
| 153 | Astronomical Institute | 191 | Max-Planck-Institut fuer Radioastronomie |
| 154 | Australia Telescope National Facility | 192 | Metsahovi Radio Observatory |
| 155 | Australian National University | 193 | Montana State University |
| 156 | Beijing Astronomical Observatory | 194 | Mullard Space Science Lab. |
| 157 | Belgian Institute for Space Aeronomy | 195 | NASA Ames Research Center |
| 158 | Birmingham University | 196 | NASA Goddard Space Flight Center |
| 159 | Boston University | 197 | NASA Headquarters |
| 160 | California Institute of Technology | 198 | NASA Johnson Space Center |
| 161 | Center for Research in Earth and Space Technology | 199 | NASA Marshall Space Flight Center |
| 162 | Centre d Etude des environnements Terrestre et Planetaires - IPSL | 200 | National Central University |
| 163 | Centre National d Etudes Spatiales | 201 | National Institute for Standards and Technology |
| 164 | Charles University | 202 | National Radio Astronomy Observatory |
| 165 | Consiglio Nazionale delle Ricerche - Istituto di Fisica dello Spazio Interplanetario | 203 | Norwegian Space Agency |
| 166 | Dominion Radio Astrophysical Observatory | 204 | Observatoire de Paris |
| 167 | Eotvos University | 205 | Onsala Space Observatory, Chalmers University of Technolgy |
| | | 206 | Rutherford Appleton Laboratory |

- | | | | |
|-----|---|-----|--|
| 207 | Sandia National Laboratories | 222 | University of Bern |
| 208 | Seoul National University | 223 | University of Calgary |
| 209 | Shanghai Observatory, Chinese Academy of Science | 224 | University of Chicago |
| 210 | Smithsonian Astrophysical Observatory | 225 | University of Colorado, the Laboratory for Atmospheric and Space Physics |
| 211 | Solar Physics Research Co. | 226 | University of Groningen |
| 212 | Swedish Institute of Space Physics | 227 | University of Hawaii |
| 213 | Technical University of Braunschweig | 228 | University of Iowa |
| 214 | Technische Universitat Munchen | 229 | University of Kent |
| 215 | The Open University | 230 | University of Maryland |
| 216 | Torun Radio Astronomy Observatory, Nicolaus Copernicus University | 231 | University of Oslo |
| 217 | UC Berkely | 232 | University of Oulu |
| 218 | UC Los Angeles | 233 | University of Sussex |
| 219 | UC San Diego | 234 | University of Tasmania |
| 220 | Universite Paris XI (Paris-sud) | 235 | University of Texas |
| 221 | University of Arizona | 236 | University of Wisconsin |
| | | 237 | Westerbork Observatory |

研究者リスト (※氏名の横の番号は、参加した研究活動の番号)

高エネルギー天文学研究系 (研究主幹：満田和久)

教授	満田和久	II-2-a-1, II-2-a-4, II-2-a-5, II-2-a-6, II-2-a-7, II-2-a-8, II-2-a-18, II-2-a-19, II-2-a-20, II-2-a-22, II-2-a-23, II-2-j-46, II-3-a-15, II-4-g-1
教授	石田 学	II-2-a-1, II-2-a-2, II-2-a-3, II-2-a-21, II-2-a-22, II-2-a-24, II-4-g-1, II-4-g-2
教授	高橋忠幸	II-2-a-12, II-2-a-13, II-2-a-14, II-2-a-15, II-2-a-16, II-2-a-30, II-2-a-31, II-2-a-32, II-2-c-20, II-2-c-21, II-2-j-1, II-2-j-2, II-3-b-1, II-3-b-2, II-4-g-1, II-4-g-5, II-4-g-6
教授	堂谷忠靖	II-2-a-1, II-2-a-10, II-2-a-11, II-2-a-24, II-2-a-26, II-2-a-27, II-2-j-46, II-2-j-51, II-4-g-1, II-4-g-3, II-4-g-4
助教授	国分紀秀	II-2-a-1, II-2-a-12, II-2-a-14, II-2-a-16, II-2-a-28, II-4-g-1, II-4-g-5, II-4-g-6
助教授	山崎典子	II-2-a-1, II-2-a-4, II-2-a-5, II-2-a-6, II-2-a-7, II-2-a-8, II-2-a-9, II-2-a-18, II-2-a-19, II-2-a-20, II-2-a-21, II-2-a-22, II-2-a-23, II-3-a-15, II-4-g-1, II-4-g-7, II-4-g-8
客員教授	國枝秀世	II-2-a-2, II-2-a-3, II-4-g-1, II-4-g-2, II-4-m-6
助手	尾崎正伸	II-2-a-1, II-2-a-10, II-2-a-11, II-2-a-17, II-2-a-29, II-2-k-13, II-4-g-1, II-4-g-3, II-4-g-4, II-4-g-8
助手	中澤知洋	II-2-a-1, II-2-a-12, II-2-a-13, II-2-a-14, II-2-a-15, II-2-a-16, II-2-a-30, II-2-a-32, II-2-a-33, II-2-c-22, II-2-j-1, II-4-g-1, II-4-g-5, II-4-g-6
助手	前田良知	II-2-a-1, II-2-a-2, II-2-a-3, II-2-a-25, II-2-a-28, II-4-g-1, II-4-g-2
助手	渡辺 伸	II-2-a-1, II-2-a-12, II-2-a-13, II-2-a-15, II-2-a-16, II-4-g-1, II-4-g-5, II-4-g-6
宇宙航空プロジェクト研究員	内山 泰	II-2-a-30, II-2-a-31, II-4-g-1
宇宙航空プロジェクト研究員	篠崎慶亮	II-2-a-4, II-2-a-7, II-4-g-1

赤外・サブミリ波天文学研究系 (研究主幹：村上 浩)

教授	村上 浩	II-2-b-4, II-2-b-5, II-2-b-6, II-2-b-7, II-2-b-8, II-2-b-10, II-2-b-12, II-2-b-18, II-2-b-37, II-4-d-1, II-4-d-2, II-4-d-5, II-4-d-6, II-4-d-13, II-4-d-14, II-4-d-15, II-4-d-16, II-4-d-17
教授	中川貴雄	II-2-b-2, II-2-b-4, II-2-b-5, II-2-b-6, II-2-b-7, II-2-b-8, II-2-b-9, II-2-b-14, II-2-b-15, II-2-b-18, II-2-b-19, II-2-b-29, II-2-b-30, II-2-b-32, II-2-b-33, II-2-b-34, II-2-k-35, II-4-d-1, II-4-d-2, II-4-d-3, II-4-d-4, II-4-d-5, II-4-d-6, II-4-d-7, II-4-d-11, II-4-d-13, II-4-d-14, II-4-d-17, II-4-d-19, II-4-d-20, II-4-d-21
教授	松原英雄	II-2-b-4, II-2-b-5, II-2-b-6, II-2-b-7, II-2-b-8, II-2-b-11, II-2-b-12, II-2-b-18, II-2-b-19, II-2-b-21, II-2-b-22, II-4-d-1, II-4-d-2, II-4-d-5, II-4-d-6, II-4-d-7, II-4-d-20
助教授	片坐宏一	II-2-b-4, II-2-b-5, II-2-b-6, II-2-b-7, II-2-b-8, II-2-b-9, II-2-b-33, II-2-b-34, II-2-b-35, II-2-b-36, II-2-b-37, II-2-b-38, II-4-d-1, II-4-d-2, II-4-d-5, II-4-d-6, II-4-d-17
助教授	紀伊恒男	II-2-b-4, II-2-j-46, II-2-j-47, II-2-j-51, II-2-j-52, II-4-d-1, II-4-d-2,

助教授	山村一誠	Ⅱ-4-d-4, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-10, Ⅱ-4-d-13, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-d-20 Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-2, Ⅱ-4-d-3, Ⅱ-4-d-4, Ⅱ-4-d-6, Ⅱ-4-d-7, Ⅱ-4-d-8, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-12, Ⅱ-4-d-17, Ⅱ-4-d-18
客員教授	芝井 広	Ⅱ-2-b-2, Ⅱ-2-b-3, Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-5, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-b-18, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-2, Ⅱ-4-d-5, Ⅱ-4-d-6, Ⅱ-4-d-7, Ⅱ-4-d-8, Ⅱ-4-d-19, Ⅱ-4-d-21
客員助教授 助手	藤沢健太 金田英宏	Ⅱ-2-b-2, Ⅱ-2-b-3, Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-5, Ⅱ-2-b-6, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-b-10, Ⅱ-2-b-12, Ⅱ-2-b-20, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-2, Ⅱ-4-d-3, Ⅱ-4-d-13, Ⅱ-4-d-14, Ⅱ-4-d-19, Ⅱ-4-d-20, Ⅱ-4-d-22
助手	松浦周二	Ⅱ-2-b-1, Ⅱ-2-b-3, Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-10, Ⅱ-2-b-11, Ⅱ-2-b-19, Ⅱ-2-b-21, Ⅱ-2-b-22, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-2, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-20
助手	和田武彦	Ⅱ-2-b-1, Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-10, Ⅱ-2-b-13, Ⅱ-2-b-19, Ⅱ-2-b-21, Ⅱ-2-b-22, Ⅱ-2-b-37, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-5, Ⅱ-4-d-6, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-14, Ⅱ-4-d-17, Ⅱ-4-d-20
宇宙航空プロジェクト研究員	塩谷圭吾	Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-5, Ⅱ-2-b-6, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-b-9, Ⅱ-2-b-33, Ⅱ-2-b-34, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-13, Ⅱ-4-d-14, Ⅱ-4-d-17, Ⅱ-4-d-20
宇宙航空プロジェクト研究員	大山陽一	Ⅱ-2-b-14, Ⅱ-2-b-19, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-5, Ⅱ-4-d-6, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-12, Ⅱ-4-d-20
宇宙航空プロジェクト研究員	岡田陽子	Ⅱ-2-b-31, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-d-21, Ⅱ-4-d-22
宇宙航空プロジェクト研究員	後藤友嗣	Ⅱ-2-b-26, Ⅱ-2-b-27, Ⅱ-2-b-28, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-3
研究員	白井文彦	Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-7, Ⅱ-4-d-8, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-10
研究員	大藪進喜	Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-7, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-10, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-d-20
研究員	白簾麻衣	Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-2, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-d-20
研究員	卷内慎一郎	Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-3, Ⅱ-4-d-9, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16
研究員	山内千里	Ⅱ-2-b-28, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-3, Ⅱ-4-d-11

宇宙プラズマ研究系 (研究主幹: 前澤 洌)

教授	前澤 洌	Ⅱ-2-a-19, Ⅱ-2-c-1, Ⅱ-2-c-2, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-4, Ⅱ-2-c-5, Ⅱ-2-c-6, Ⅱ-2-c-7, Ⅱ-2-c-16, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-k-1
教授	佐藤毅彦	Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-3, Ⅱ-4-j-7
教授	藤本正樹	Ⅱ-2-c-1, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-8, Ⅱ-2-c-9, Ⅱ-2-c-10, Ⅱ-2-c-27, Ⅱ-3-a-12, Ⅱ-3-a-13, Ⅱ-3-a-20, Ⅱ-4-k-1
客員教授	大村善治	Ⅱ-2-c-28, Ⅱ-2-c-29, Ⅱ-2-c-30, Ⅱ-2-c-31
客員教授	小野高幸	Ⅱ-2-c-32, Ⅱ-2-c-33, Ⅱ-2-c-34, Ⅱ-2-c-35, Ⅱ-2-c-36, Ⅱ-2-c-37, Ⅱ-2-c-38, Ⅱ-2-c-39, Ⅱ-2-c-40, Ⅱ-2-c-41, Ⅱ-2-c-42
助教授	阿部琢美	Ⅱ-2-c-43, Ⅱ-2-e-28, Ⅱ-2-h-96, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-b-3, Ⅱ-4-j-1
助教授	齋藤義文	Ⅱ-2-c-1, Ⅱ-2-c-2, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-11, Ⅱ-2-c-12, Ⅱ-2-c-13, Ⅱ-2-c-14, Ⅱ-2-c-15, Ⅱ-2-c-16, Ⅱ-2-c-22, Ⅱ-2-c-23, Ⅱ-2-c-24, Ⅱ-2-i-8, Ⅱ-2-k-40, Ⅱ-3-a-19, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	高島 健	Ⅱ-2-a-12, Ⅱ-2-a-15, Ⅱ-2-c-19, Ⅱ-2-c-20, Ⅱ-2-c-21, Ⅱ-2-c-22, Ⅱ-2-c-23, Ⅱ-2-d-62, Ⅱ-2-d-63, Ⅱ-2-d-110, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-2-k-13, Ⅱ-2-k-36, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-k-1

助教授	松岡彩子	Ⅱ-2-a-19, Ⅱ-2-c-17, Ⅱ-2-c-18, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-b-2, Ⅱ-4-b-3, Ⅱ-4-k-1
助 手	浅村和史	Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-12, Ⅱ-2-c-13, Ⅱ-2-c-14, Ⅱ-2-c-15, Ⅱ-2-c-21, Ⅱ-2-c-22, Ⅱ-2-c-23, Ⅱ-2-c-24, Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-c-26, Ⅱ-2-k-1, Ⅱ-3-a-22, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-b-3, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-2, Ⅱ-4-i-3, Ⅱ-4-i-4, Ⅱ-4-i-5, Ⅱ-4-i-6, Ⅱ-4-k-1
助 手	長谷川洋	Ⅱ-2-c-8, Ⅱ-2-c-27, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-k-1
助 手	山崎 敦	Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-3, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-5, Ⅱ-4-k-1
助 手	横田勝一郎	Ⅱ-2-c-12, Ⅱ-2-c-13, Ⅱ-2-c-14, Ⅱ-2-c-15, Ⅱ-2-c-16, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-k-1
宇宙航空プロジェクト研究員	下山 学	
宇宙航空プロジェクト研究員	栗原純一	Ⅱ-2-c-43
技術参与	向井利典	Ⅱ-2-c-1, Ⅱ-2-c-2, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-11, Ⅱ-2-c-12, Ⅱ-2-c-13, Ⅱ-2-c-14, Ⅱ-2-c-15, Ⅱ-2-c-16, Ⅱ-2-c-17, Ⅱ-2-c-22, Ⅱ-2-c-23, Ⅱ-2-c-24, Ⅱ-2-d-60, Ⅱ-2-g-14, Ⅱ-3-a-12, Ⅱ-3-a-19, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-b-3, Ⅱ-4-k-1

固体惑星科学研究系（研究主幹：加藤 學）

教 授	加藤 學	Ⅱ-2-d-11, Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-d-14, Ⅱ-2-d-15, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-17, Ⅱ-2-d-18, Ⅱ-2-d-19, Ⅱ-2-d-20, Ⅱ-2-d-21, Ⅱ-2-d-22, Ⅱ-2-d-23, Ⅱ-2-d-24, Ⅱ-2-d-25, Ⅱ-2-d-26, Ⅱ-2-d-27, Ⅱ-2-d-28, Ⅱ-2-d-29, Ⅱ-2-d-31, Ⅱ-2-d-32, Ⅱ-2-d-33, Ⅱ-2-d-110, Ⅱ-2-d-112, Ⅱ-2-d-113, Ⅱ-2-d-114, Ⅱ-2-d-115, Ⅱ-2-d-117, Ⅱ-2-d-118, Ⅱ-2-d-123, Ⅱ-2-d-124, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-k-1
教 授	早川 基	Ⅱ-2-c-12, Ⅱ-2-c-13, Ⅱ-2-c-17, Ⅱ-2-c-20, Ⅱ-2-d-59, Ⅱ-2-d-61, Ⅱ-2-g-14, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-e-1, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-k-1
教 授	藤村彰夫	Ⅱ-2-d-2, Ⅱ-2-d-3, Ⅱ-2-d-4, Ⅱ-2-d-5, Ⅱ-2-d-6, Ⅱ-2-d-7, Ⅱ-2-d-8, Ⅱ-2-d-9, Ⅱ-2-d-10, Ⅱ-2-d-11, Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-d-20, Ⅱ-2-d-40, Ⅱ-2-d-59, Ⅱ-2-d-122, Ⅱ-2-d-123, Ⅱ-2-d-124, Ⅱ-4-e-1, Ⅱ-4-e-2, Ⅱ-4-e-3, Ⅱ-4-e-4, Ⅱ-4-k-1
助教授	岩田隆浩	Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-69, Ⅱ-2-d-70, Ⅱ-2-d-71, Ⅱ-2-d-72, Ⅱ-2-d-73, Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-2-d-75, Ⅱ-2-d-76, Ⅱ-2-d-77, Ⅱ-2-d-78, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-110, Ⅱ-2-e-4, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
助教授	岡田達明	Ⅱ-2-d-13, Ⅱ-2-d-14, Ⅱ-2-d-15, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-17, Ⅱ-2-d-18, Ⅱ-2-d-19, Ⅱ-2-d-20, Ⅱ-2-d-21, Ⅱ-2-d-22, Ⅱ-2-d-23, Ⅱ-2-d-24, Ⅱ-2-d-25, Ⅱ-2-d-26, Ⅱ-2-d-27, Ⅱ-2-d-28, Ⅱ-2-d-29, Ⅱ-2-d-30, Ⅱ-2-d-31, Ⅱ-2-d-32, Ⅱ-2-d-33, Ⅱ-2-d-34, Ⅱ-2-d-35, Ⅱ-2-d-109, Ⅱ-2-d-110, Ⅱ-2-d-112, Ⅱ-2-d-113, Ⅱ-2-d-114, Ⅱ-2-d-115, Ⅱ-2-d-116, Ⅱ-2-d-117, Ⅱ-2-d-118, Ⅱ-2-d-119, Ⅱ-2-d-120, Ⅱ-2-d-121, Ⅱ-2-d-123, Ⅱ-2-d-124, Ⅱ-2-j-14, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-4-k-1
助教授	田中 智	Ⅱ-2-d-1, Ⅱ-2-d-2, Ⅱ-2-d-3, Ⅱ-2-d-4, Ⅱ-2-d-5, Ⅱ-2-d-6, Ⅱ-2-d-7, Ⅱ-2-d-8, Ⅱ-2-d-9, Ⅱ-2-d-10, Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-d-27, Ⅱ-2-d-59, Ⅱ-2-j-44, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-e-1, Ⅱ-4-e-2, Ⅱ-4-e-3, Ⅱ-4-e-4, Ⅱ-4-k-1
助教授	笠羽康正	Ⅱ-2-a-12, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-26, Ⅱ-2-d-60, Ⅱ-2-d-61, Ⅱ-2-d-62, Ⅱ-2-d-63,

		Ⅱ-2-g-14, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-9, Ⅱ-3-a-12, Ⅱ-3-a-22, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-i-3, Ⅱ-4-i-5, Ⅱ-4-i-6, Ⅱ-4-j-3, Ⅱ-4-k-1
客員教授	中村栄三	
客員教授	山本哲生	Ⅱ-2-d-53, Ⅱ-2-d-54, Ⅱ-2-d-55, Ⅱ-2-d-56, Ⅱ-2-d-64, Ⅱ-2-d-65, Ⅱ-2-d-66, Ⅱ-2-d-67, Ⅱ-2-d-68
客員助教授	杉田精司	Ⅱ-2-d-57, Ⅱ-2-d-58
客員助教授	村上英記	Ⅱ-2-d-59
助手	安部正真	Ⅱ-2-d-11, Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-36, Ⅱ-2-d-37, Ⅱ-2-d-38, Ⅱ-2-d-39, Ⅱ-2-d-40, Ⅱ-2-d-41, Ⅱ-2-d-42, Ⅱ-2-d-43, Ⅱ-2-d-44, Ⅱ-2-d-45, Ⅱ-2-d-46, Ⅱ-2-d-47, Ⅱ-2-d-48, Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-50, Ⅱ-2-d-51, Ⅱ-2-d-52, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-d-104, Ⅱ-2-d-129, Ⅱ-2-d-130, Ⅱ-2-d-131, Ⅱ-2-d-132, Ⅱ-2-d-133, Ⅱ-2-d-134, Ⅱ-2-d-135, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-k-1
助手	飯島祐一	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-k-1
助手	大竹真紀子	Ⅱ-2-d-1, Ⅱ-2-d-22, Ⅱ-2-d-26, Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-92, Ⅱ-2-d-93, Ⅱ-2-d-94, Ⅱ-2-d-96, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-100, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-102, Ⅱ-2-d-103, Ⅱ-2-d-104, Ⅱ-2-d-105, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-2-d-107, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-109, Ⅱ-2-d-110, Ⅱ-2-d-111, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-4-k-1
助手	白石浩章	Ⅱ-2-d-2, Ⅱ-2-d-3, Ⅱ-2-d-4, Ⅱ-2-d-5, Ⅱ-2-d-6, Ⅱ-2-d-7, Ⅱ-2-d-8, Ⅱ-2-d-9, Ⅱ-2-d-10, Ⅱ-2-d-59, Ⅱ-4-e-1, Ⅱ-4-e-2, Ⅱ-4-e-4
助手	早川雅彦	Ⅱ-2-d-2, Ⅱ-2-d-3, Ⅱ-2-d-4, Ⅱ-2-d-7, Ⅱ-2-d-8, Ⅱ-2-d-59, Ⅱ-4-e-1, Ⅱ-4-e-3, Ⅱ-4-k-1
助手	春山純一	Ⅱ-2-d-35, Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-92, Ⅱ-2-d-93, Ⅱ-2-d-94, Ⅱ-2-d-95, Ⅱ-2-d-96, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-98, Ⅱ-2-d-99, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-102, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-111, Ⅱ-2-d-120, Ⅱ-4-k-1
助手	矢野 創	Ⅱ-2-d-9, Ⅱ-2-d-13, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-41, Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-d-131, Ⅱ-2-g-8, Ⅱ-2-h-99, Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-k-20, Ⅱ-2-k-21, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-k-1
宇宙航空プロジェクト研究員	本田親寿	Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-98, Ⅱ-2-d-99, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-111, Ⅱ-2-d-119, Ⅱ-2-d-122
宇宙航空プロジェクト研究員	諸田智克	Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-98, Ⅱ-2-d-99, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-111

宇宙科学共通基礎研究系（研究主幹：中村正人）

教授	中村正人	Ⅱ-2-e-1, Ⅱ-2-e-2, Ⅱ-2-e-28, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-2, Ⅱ-4-j-3, Ⅱ-4-j-4, Ⅱ-4-j-5, Ⅱ-4-j-6, Ⅱ-4-j-7, Ⅱ-4-j-8, Ⅱ-4-k-1,
----	------	--

教授	小杉健郎	Ⅱ-2-e-12, Ⅱ-2-e-13, Ⅱ-2-e-26, Ⅱ-2-e-27, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-2, Ⅱ-4-h-3, Ⅱ-4-h-4, Ⅱ-4-h-5, Ⅱ-4-h-6, Ⅱ-4-h-7, Ⅱ-4-h-8
助教授	今村 剛	Ⅱ-2-c-20, Ⅱ-2-e-1, Ⅱ-2-e-4, Ⅱ-2-e-5, Ⅱ-2-e-6, Ⅱ-2-e-28, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-3, Ⅱ-4-j-4, Ⅱ-4-j-5, Ⅱ-4-j-7, Ⅱ-4-j-8
助教授	北村良実	Ⅱ-2-e-1, Ⅱ-2-e-14, Ⅱ-2-e-15, Ⅱ-2-e-16, Ⅱ-2-e-17, Ⅱ-4-k-1
助教授	坂尾太郎	Ⅱ-2-e-25, Ⅱ-2-e-26, Ⅱ-2-e-27, Ⅱ-3-a-16, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-3, Ⅱ-4-h-4, Ⅱ-4-h-6, Ⅱ-4-h-7
助教授	清水敏文	Ⅱ-2-e-19, Ⅱ-2-e-21, Ⅱ-2-e-22, Ⅱ-2-e-23, Ⅱ-2-e-24, Ⅱ-2-e-25, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-3-a-16, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-2, Ⅱ-4-h-6, Ⅱ-4-h-7, Ⅱ-4-h-8, Ⅱ-4-h-9
助教授	村田泰宏	Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-k-30, Ⅱ-2-k-44
客員教授	奈良岡浩	
客員教授	能町正治	
客員教授	渡邊鉄哉	Ⅱ-2-e-12, Ⅱ-2-e-13, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-5, Ⅱ-4-h-7
助手	市村 淳	Ⅱ-2-e-9, Ⅱ-2-e-10, Ⅱ-2-e-11
助手	崎本一博	Ⅱ-2-e-7, Ⅱ-2-e-8
宇宙航空プロジェクト研究員	久保雅仁	Ⅱ-2-e-21, Ⅱ-2-e-22, Ⅱ-2-e-24, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-7
宇宙航空プロジェクト研究員	成影典之	Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-7
宇宙航空プロジェクト研究員	福原哲哉	Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-4
宇宙航空プロジェクト研究員	宮腰剛広	Ⅱ-2-e-18, Ⅱ-2-e-19, Ⅱ-2-e-20, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-7
研究員	上水和田典	Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-5, Ⅱ-4-d-6, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-2, Ⅱ-4-j-3

宇宙環境利用科学研究系（研究主幹：栗林一彦）

教授	栗林一彦	Ⅱ-2-f-7, Ⅱ-2-f-8, Ⅱ-2-f-9, Ⅱ-2-f-10, Ⅱ-2-f-11, Ⅱ-2-f-12, Ⅱ-2-f-13, Ⅱ-4-n-4
教授	山下雅道	Ⅱ-2-f-14, Ⅱ-2-f-15, Ⅱ-2-f-16, Ⅱ-2-f-17, Ⅱ-2-k-24
助教授	稲富裕光	Ⅱ-2-f-1, Ⅱ-2-f-2, Ⅱ-2-j-57
助教授	黒谷明美	Ⅱ-2-f-3, Ⅱ-2-f-4, Ⅱ-2-f-5, Ⅱ-2-f-6
客員助教授	橋本博文	Ⅱ-2-f-17
助手	長汐晃輔	Ⅱ-2-f-7, Ⅱ-2-f-8, Ⅱ-2-f-9, Ⅱ-2-f-10, Ⅱ-2-f-11, Ⅱ-2-f-13
宇宙航空プロジェクト研究員	野崎 潔	Ⅱ-2-f-9

宇宙航行システム研究系（研究主幹：川口淳一郎）

教授	川口淳一郎	Ⅱ-2-d-13, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-g-1, Ⅱ-2-g-2, Ⅱ-2-g-3, Ⅱ-2-g-4, Ⅱ-2-g-5, Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-g-7, Ⅱ-2-g-9, Ⅱ-2-g-10, Ⅱ-2-h-1, Ⅱ-2-h-6, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-93, Ⅱ-2-h-98, Ⅱ-2-j-19, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-3-b-1, Ⅱ-3-b-2, Ⅱ-3-b-3, Ⅱ-3-e-1, Ⅱ-3-e-2, Ⅱ-3-e-3, Ⅱ-3-e-4, Ⅱ-3-e-5, Ⅱ-3-e-6, Ⅱ-3-e-7, Ⅱ-3-e-8, Ⅱ-3-e-9, Ⅱ-3-g-21, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-k-1, Ⅱ-4-o-2
教授	石井信明	Ⅱ-2-d-9, Ⅱ-2-e-28, Ⅱ-2-g-20, Ⅱ-2-h-90, Ⅱ-2-i-19, Ⅱ-3-f-16, Ⅱ-4-c-3, Ⅱ-4-c-4, Ⅱ-4-c-5, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-8, Ⅱ-4-k-1
教授	稲谷芳文	Ⅱ-2-g-13, Ⅱ-2-g-16, Ⅱ-2-g-17, Ⅱ-2-g-19, Ⅱ-2-g-20, Ⅱ-2-h-82, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-2-h-88, Ⅱ-4-c-3, Ⅱ-4-c-4, Ⅱ-4-c-5
教授	中島 俊	Ⅱ-2-g-19
助教授	小川博之	Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-g-11, Ⅱ-2-g-12, Ⅱ-2-g-13, Ⅱ-2-g-14,

		Ⅱ-2-g-15, Ⅱ-2-g-16, Ⅱ-2-g-17, Ⅱ-2-g-18, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-22, Ⅱ-2-h-65, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-4-k-1
助教授	澤井秀次郎	Ⅱ-2-d-121, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-37, Ⅱ-2-h-66, Ⅱ-2-i-15, Ⅱ-2-j-21, Ⅱ-2-j-55, Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-j-58, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
客員教授	吉川典彦	
客員助教授	花田俊也	
助手	川勝康弘	Ⅱ-2-d-43, Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-g-10, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-51, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-j-1
助手	竹前俊昭	Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-3-d-1, Ⅱ-3-d-2, Ⅱ-3-d-3
助手	津田雄一	Ⅱ-2-g-1, Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-g-9, Ⅱ-2-g-10, Ⅱ-2-i-8, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-2-k-40, Ⅱ-3-g-21, Ⅱ-4-i-8, Ⅱ-4-i-12
助手	成尾芳博	Ⅱ-2-g-13, Ⅱ-2-g-17, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-82, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-2-h-86, Ⅱ-2-i-17, Ⅱ-2-k-25
助手	野中 聡	Ⅱ-2-g-13, Ⅱ-2-g-17, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-55, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-90, Ⅱ-2-i-17
助手	森 治	Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-g-1, Ⅱ-2-g-2, Ⅱ-2-g-3, Ⅱ-2-g-4, Ⅱ-2-g-5, Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-g-7, Ⅱ-2-g-8, Ⅱ-2-g-9, Ⅱ-2-g-10, Ⅱ-2-h-99, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-3-g-21, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-o-2

宇宙輸送工学研究系 (研究主幹: 安部隆士)

教授	安部隆士	Ⅱ-2-h-11, Ⅱ-2-h-12, Ⅱ-2-h-13, Ⅱ-2-h-14, Ⅱ-2-h-15, Ⅱ-2-h-16, Ⅱ-2-h-17, Ⅱ-2-h-18, Ⅱ-2-h-19, Ⅱ-2-h-20, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-22, Ⅱ-2-h-87
教授	國中 均	Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-24, Ⅱ-2-h-69, Ⅱ-2-h-70, Ⅱ-2-h-71, Ⅱ-2-h-72, Ⅱ-2-h-73, Ⅱ-2-h-74, Ⅱ-2-h-75, Ⅱ-2-h-76, Ⅱ-2-h-77, Ⅱ-2-h-78, Ⅱ-2-h-80, Ⅱ-4-k-1
教授	嶋田 徹	Ⅱ-2-h-38, Ⅱ-2-h-39, Ⅱ-2-h-40, Ⅱ-2-h-41, Ⅱ-2-h-42, Ⅱ-2-h-43, Ⅱ-2-h-44, Ⅱ-2-h-45, Ⅱ-2-h-46, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-48, Ⅱ-2-h-63, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-89, Ⅱ-2-h-91, Ⅱ-4-o-1
教授	藤井孝藏	Ⅱ-2-h-49, Ⅱ-2-h-50, Ⅱ-2-h-51, Ⅱ-2-h-52, Ⅱ-2-h-53, Ⅱ-2-h-54, Ⅱ-2-h-55, Ⅱ-2-h-56, Ⅱ-2-h-57, Ⅱ-2-h-58, Ⅱ-2-h-59, Ⅱ-2-h-60, Ⅱ-2-h-61, Ⅱ-2-h-62, Ⅱ-3-a-8, Ⅱ-3-a-9
教授	森田泰弘	Ⅱ-2-g-12, Ⅱ-2-h-1, Ⅱ-2-h-2, Ⅱ-2-h-3, Ⅱ-2-h-4, Ⅱ-2-h-5, Ⅱ-2-h-6, Ⅱ-2-h-7, Ⅱ-2-h-8, Ⅱ-2-h-9, Ⅱ-2-h-10, Ⅱ-2-j-19, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-4-k-1
助教授	坪井伸幸	Ⅱ-2-h-26, Ⅱ-2-h-27, Ⅱ-2-h-28, Ⅱ-2-h-29, Ⅱ-2-h-30, Ⅱ-2-h-31, Ⅱ-2-h-32, Ⅱ-2-h-33, Ⅱ-2-h-34, Ⅱ-2-h-35, Ⅱ-2-h-36, Ⅱ-2-h-37, Ⅱ-2-h-38, Ⅱ-2-h-41, Ⅱ-2-h-43, Ⅱ-2-h-63, Ⅱ-2-h-65
助教授	西山和孝	Ⅱ-2-h-69, Ⅱ-2-h-70, Ⅱ-2-h-71, Ⅱ-2-h-73, Ⅱ-2-h-74, Ⅱ-2-h-79
助教授	船木一幸	Ⅱ-2-g-11, Ⅱ-2-g-16, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-22, Ⅱ-2-h-23, Ⅱ-2-h-24, Ⅱ-2-h-25, Ⅱ-2-h-30, Ⅱ-2-h-69
助教授	堀 恵一	Ⅱ-2-h-45, Ⅱ-2-h-63, Ⅱ-2-h-64, Ⅱ-2-h-65, Ⅱ-2-h-66, Ⅱ-2-h-67, Ⅱ-2-h-68, Ⅱ-4-k-1
客員教授	永田晴紀	
助手	徳留真一郎	Ⅱ-2-g-17, Ⅱ-2-h-39, Ⅱ-2-h-44, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-82, Ⅱ-2-h-83, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-2-h-86, Ⅱ-2-h-93, Ⅱ-3-g-20
助手	山田哲哉	Ⅱ-2-g-19, Ⅱ-2-g-20, Ⅱ-2-h-20, Ⅱ-2-h-69, Ⅱ-2-h-87, Ⅱ-2-h-88,

		Ⅱ-2-h-89, Ⅱ-2-h-90, Ⅱ-3-c-5, Ⅱ-4-c-3, Ⅱ-4-c-4, Ⅱ-4-c-5
助手	大山 聖	Ⅱ-2-h-49, Ⅱ-2-h-55, Ⅱ-2-h-57, Ⅱ-2-h-59, Ⅱ-2-h-60, Ⅱ-2-h-61, Ⅱ-2-h-62
助手	羽生宏人	Ⅱ-2-h-39, Ⅱ-2-h-41, Ⅱ-2-h-44, Ⅱ-2-h-46, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-91, Ⅱ-2-h-92, Ⅱ-2-h-93, Ⅱ-2-h-94, Ⅱ-2-h-95, Ⅱ-2-h-96, Ⅱ-2-h-97, Ⅱ-2-h-98, Ⅱ-2-h-99, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-4-o-1, Ⅱ-4-o-2
招聘研究員	佐藤俊逸	Ⅱ-2-h-15, Ⅱ-2-h-17
主任研究員	藤田和央	Ⅱ-2-g-16, Ⅱ-2-h-37, Ⅱ-2-h-90, Ⅱ-2-j-57
宇宙航空プロジェクト研究員	松田 淳	Ⅱ-2-h-13, Ⅱ-2-h-14, Ⅱ-2-h-15, Ⅱ-2-h-18
宇宙航空プロジェクト研究員	葛山 浩	Ⅱ-2-h-13, Ⅱ-2-h-15, Ⅱ-2-h-18
研究員	滝澤勇二	Ⅱ-2-h-15
研究員	林 寛	
研究員	細田聡史	
研究員	小林弘明	Ⅱ-2-h-37, Ⅱ-2-j-57
プロジェクト共同研究員	大門 優	Ⅱ-2-h-38, Ⅱ-2-h-41, Ⅱ-2-h-42, Ⅱ-2-h-43, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-48

宇宙構造・材料工学研究系（研究主幹：名取通弘）

教授	名取通弘	Ⅱ-2-i-3, Ⅱ-2-i-4, Ⅱ-2-i-5, Ⅱ-2-i-6, Ⅱ-2-i-12, Ⅱ-2-i-23, Ⅱ-4-d-1
教授	小野田淳次郎	Ⅱ-2-i-18, Ⅱ-2-i-20, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-2-i-22, Ⅱ-2-i-23, Ⅱ-2-i-24, Ⅱ-2-i-25, Ⅱ-4-k-1
教授	小松敬治	Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-d-6, Ⅱ-2-d-10, Ⅱ-2-i-1, Ⅱ-2-i-2, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-4-k-1
教授	佐藤英一	Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-86, Ⅱ-2-i-13, Ⅱ-2-i-14, Ⅱ-2-i-15, Ⅱ-2-i-16, Ⅱ-2-i-17, Ⅱ-4-k-1
教授	八田博志	Ⅱ-2-b-5, Ⅱ-4-k-1
助教授	樋口 健	Ⅱ-2-i-3, Ⅱ-2-i-4, Ⅱ-2-i-5, Ⅱ-2-i-6, Ⅱ-2-i-7, Ⅱ-2-i-8, Ⅱ-2-i-9, Ⅱ-2-i-10, Ⅱ-2-i-11, Ⅱ-2-i-12, Ⅱ-2-i-17, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	後藤 健	Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-4-k-1
助教授	峯杉賢治	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-e-25, Ⅱ-2-i-18, Ⅱ-2-i-19, Ⅱ-2-i-20, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-2-i-22, Ⅱ-2-i-24, Ⅱ-2-i-25, Ⅱ-2-j-48, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
客員助教授	宮崎康行	
助手	奥泉信克	Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-i-3, Ⅱ-2-i-4, Ⅱ-2-i-5, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-2-i-23, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-i-9, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-8
助手	竹内伸介	Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-i-11, Ⅱ-2-i-17, Ⅱ-2-i-18, Ⅱ-2-i-21, Ⅱ-2-i-23, Ⅱ-2-i-25
助手	元屋敷靖子	Ⅱ-2-i-14, Ⅱ-2-i-15
宇宙航空プロジェクト研究員	長野方星	Ⅱ-2-j-60, Ⅱ-2-j-61, Ⅱ-2-j-63, Ⅱ-2-j-64

宇宙探査工学研究系（研究主幹：田島道夫）

教授	田島道夫	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-j-3, Ⅱ-2-j-4, Ⅱ-2-j-5, Ⅱ-2-j-6, Ⅱ-2-j-7, Ⅱ-2-j-8, Ⅱ-2-j-9, Ⅱ-2-j-16, Ⅱ-2-j-17, Ⅱ-2-j-68, Ⅱ-2-j-75, Ⅱ-2-j-76, Ⅱ-2-j-77, Ⅱ-2-j-78, Ⅱ-2-j-79, Ⅱ-2-j-80, Ⅱ-2-j-81, Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-i-10, Ⅱ-4-k-1
教授	池田博一	Ⅱ-2-a-5, Ⅱ-2-a-15, Ⅱ-2-a-18, Ⅱ-2-j-1, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-2-j-71, Ⅱ-2-k-16
教授	中谷一郎	Ⅱ-2-d-6, Ⅱ-2-d-10, Ⅱ-2-j-13, Ⅱ-2-j-19, Ⅱ-2-j-21, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-2-j-24,

		Ⅱ-2-j-25, Ⅱ-2-j-34, Ⅱ-2-j-35, Ⅱ-2-j-36, Ⅱ-2-j-37, Ⅱ-2-j-38, Ⅱ-2-j-44, Ⅱ-2-j-54, Ⅱ-2-k-35, Ⅱ-4-a-1
教授	橋本樹明	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-a-12, Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-h-37, Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-j-21, Ⅱ-2-j-25, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-48, Ⅱ-2-j-49, Ⅱ-2-j-50, Ⅱ-2-j-51, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-53, Ⅱ-2-j-54, Ⅱ-2-j-55, Ⅱ-2-j-56, Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-j-58, Ⅱ-2-j-85, Ⅱ-2-j-87, Ⅱ-3-b-1, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	久保田孝	Ⅱ-2-j-14, Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-j-19, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-2-j-21, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-2-j-23, Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-2-j-25, Ⅱ-2-j-26, Ⅱ-2-j-27, Ⅱ-2-j-28, Ⅱ-2-j-29, Ⅱ-2-j-30, Ⅱ-2-j-31, Ⅱ-2-j-32, Ⅱ-2-j-33, Ⅱ-2-j-34, Ⅱ-2-j-35, Ⅱ-2-j-36, Ⅱ-2-j-39, Ⅱ-2-j-40, Ⅱ-2-j-41, Ⅱ-2-j-42, Ⅱ-2-j-43, Ⅱ-2-j-44, Ⅱ-2-j-45, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-53, Ⅱ-2-j-54, Ⅱ-2-j-55, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-4-k-1
助教授	坂井真一郎	Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-48, Ⅱ-2-j-49, Ⅱ-2-j-50, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-56, Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-j-58, Ⅱ-2-j-85, Ⅱ-2-j-86, Ⅱ-2-j-87, Ⅱ-2-k-1, Ⅱ-2-k-37, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-7, Ⅱ-4-i-13
助教授	曾根理嗣	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-j-6, Ⅱ-2-j-7, Ⅱ-2-j-75, Ⅱ-2-j-76, Ⅱ-2-j-77, Ⅱ-2-j-78, Ⅱ-2-j-79, Ⅱ-2-j-80, Ⅱ-2-j-81, Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-i-9, Ⅱ-4-i-10, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	廣瀬和之	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-b-12, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-2-j-16, Ⅱ-2-j-17, Ⅱ-2-j-18, Ⅱ-2-j-75, Ⅱ-2-j-76, Ⅱ-2-j-77, Ⅱ-2-j-78, Ⅱ-2-j-79, Ⅱ-2-j-80, Ⅱ-2-j-81, Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-2-k-3, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-i-10, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	水野貴秀	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-69, Ⅱ-2-j-70, Ⅱ-2-j-71, Ⅱ-2-j-72, Ⅱ-2-j-73, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-k-34, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-11, Ⅱ-4-k-1
客員助教授	年吉 洋	Ⅱ-2-j-10, Ⅱ-2-j-11, Ⅱ-2-j-12, Ⅱ-2-k-16
客員助教授	横小路泰義	
助手	大槻真嗣	Ⅱ-2-d-27, Ⅱ-2-j-14, Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-2-j-36, Ⅱ-2-j-41
助手	大西 晃	Ⅱ-2-b-4, Ⅱ-2-b-7, Ⅱ-2-b-8, Ⅱ-2-j-59, Ⅱ-2-j-60, Ⅱ-2-j-61, Ⅱ-2-j-62, Ⅱ-2-j-63, Ⅱ-2-j-64, Ⅱ-2-j-65, Ⅱ-2-j-66, Ⅱ-2-j-67, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-k-1
助手	小林大輔	Ⅱ-2-j-16, Ⅱ-2-j-17, Ⅱ-2-j-18, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-k-3
助手	豊田裕之	Ⅱ-2-j-68, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-j-75, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-j-1
助手	坂東信尚	Ⅱ-2-j-15, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-50, Ⅱ-2-j-51, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-53, Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-j-58, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-j-85, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-h-1
助手	福島洋介	Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-7, Ⅱ-4-i-8, Ⅱ-4-i-12
助手	三田 信	Ⅱ-2-a-4, Ⅱ-2-a-8, Ⅱ-2-h-94, Ⅱ-2-j-10, Ⅱ-2-j-11, Ⅱ-2-j-12, Ⅱ-2-j-13, Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-2-j-70, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-k-2, Ⅱ-2-k-19, Ⅱ-4-i-9
宇宙情報・エネルギー工学研究系（研究主幹：齋藤宏文）		
教授	齋藤宏文	Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-18, Ⅱ-2-j-25, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-49, Ⅱ-2-j-56, Ⅱ-2-j-73, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-2-j-86, Ⅱ-2-j-87, Ⅱ-2-k-1, Ⅱ-2-k-2, Ⅱ-2-k-3, Ⅱ-2-k-4, Ⅱ-2-k-5, Ⅱ-2-k-6, Ⅱ-2-k-7, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-2-k-36, Ⅱ-2-k-37, Ⅱ-2-k-38, Ⅱ-2-k-39, Ⅱ-2-k-42, Ⅱ-2-k-43, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-d-1,

		Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-3, Ⅱ-4-i-7, Ⅱ-4-i-8, Ⅱ-4-i-9, Ⅱ-4-i-10, Ⅱ-4-i-11, Ⅱ-4-i-12, Ⅱ-4-i-13, Ⅱ-4-j-9, Ⅱ-4-k-1
教授	佐々木進	Ⅱ-2-j-68, Ⅱ-2-k-23, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-2-k-26, Ⅱ-2-k-45, Ⅱ-2-k-46, Ⅱ-2-k-47, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6
教授	高野 忠	Ⅱ-2-d-67, Ⅱ-2-d-68, Ⅱ-2-k-15, Ⅱ-2-k-16, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-2-k-18, Ⅱ-2-k-19, Ⅱ-2-k-20, Ⅱ-2-k-21, Ⅱ-2-k-22, Ⅱ-2-k-23, Ⅱ-2-k-24, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-k-1
教授	山田隆弘	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-a-12, Ⅱ-2-k-8, Ⅱ-2-k-9, Ⅱ-2-k-10, Ⅱ-2-k-11, Ⅱ-2-k-12, Ⅱ-2-k-13, Ⅱ-2-k-14, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-8, Ⅱ-4-k-1
教授	山本善一	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-j-67, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-2-k-38, Ⅱ-3-f-14, Ⅱ-3-f-20, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-j-9, Ⅱ-4-k-1
助教授	加藤隆二	Ⅱ-2-k-28, Ⅱ-2-k-44, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	田中孝治	Ⅱ-2-j-68, Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-2-k-26, Ⅱ-2-k-45, Ⅱ-2-k-46, Ⅱ-2-k-47, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-i-9, Ⅱ-4-i-10
助教授	戸田知朗	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-j-49, Ⅱ-2-k-5, Ⅱ-2-k-6, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-2-k-38, Ⅱ-2-k-39, Ⅱ-2-k-40, Ⅱ-2-k-41, Ⅱ-2-k-42, Ⅱ-2-k-43, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-j-8, Ⅱ-4-j-9, Ⅱ-4-k-1
助教授	吉川 真	Ⅱ-2-d-13, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-50, Ⅱ-2-d-51, Ⅱ-2-d-52, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-k-20, Ⅱ-2-k-27, Ⅱ-2-k-28, Ⅱ-2-k-44, Ⅱ-4-c-1, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-j-1, Ⅱ-4-k-1
助教授	吉光徹雄	Ⅱ-2-a-12, Ⅱ-2-d-49, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-j-22, Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-2-j-34, Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-k-17, Ⅱ-4-c-2
客員教授	坂村 健	
客員教授	馬場 護	
客員助教授	廣瀬 明	
助手	朝木義晴	Ⅱ-2-k-29, Ⅱ-2-k-30
助手	竹内 央	Ⅱ-2-k-28, Ⅱ-4-h-1
助手	福田盛介	Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-18, Ⅱ-2-j-21, Ⅱ-2-j-53, Ⅱ-2-j-55, Ⅱ-2-j-69, Ⅱ-2-j-74, Ⅱ-2-k-2, Ⅱ-2-k-31, Ⅱ-2-k-32, Ⅱ-2-k-33, Ⅱ-2-k-34, Ⅱ-2-k-35, Ⅱ-2-k-36, Ⅱ-2-k-37, Ⅱ-4-i-1, Ⅱ-4-i-11
研究員	奥平恭子	
研究員	菅原 章	Ⅱ-2-k-16
研究員	望月奈々子	Ⅱ-2-k-44

宇宙科学情報解析センター（センター長：藤井孝藏）

教授	藤井孝藏	Ⅱ-2-h-49, Ⅱ-2-h-50, Ⅱ-2-h-51, Ⅱ-2-h-52, Ⅱ-2-h-53, Ⅱ-2-h-54, Ⅱ-2-h-55, Ⅱ-2-h-56, Ⅱ-2-h-57, Ⅱ-2-h-58, Ⅱ-2-h-59, Ⅱ-2-h-60, Ⅱ-2-h-61, Ⅱ-2-h-62, Ⅱ-3-a-8, Ⅱ-3-a-9
教授	海老澤研	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-10, Ⅱ-3-a-11, Ⅱ-3-a-12, Ⅱ-3-a-18, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-g-8
助教授	篠原 育	Ⅱ-2-a-19, Ⅱ-2-c-3, Ⅱ-2-c-8, Ⅱ-2-c-9, Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-8, Ⅱ-3-a-12, Ⅱ-3-a-13, Ⅱ-3-a-20, Ⅱ-3-a-21, Ⅱ-3-a-22, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-b-1, Ⅱ-4-i-6, Ⅱ-4-k-1
助教授	高木亮治	Ⅱ-2-h-38, Ⅱ-2-h-41, Ⅱ-2-h-43, Ⅱ-2-h-61, Ⅱ-2-h-62, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-4,

		Ⅱ-3-a-5, Ⅱ-3-a-8, Ⅱ-3-a-14, Ⅱ-3-f-18
助教授	松崎恵一	Ⅱ-2-e-26, Ⅱ-2-e-27, Ⅱ-2-k-13, Ⅱ-2-k-14, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-4, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-7, Ⅱ-3-a-16, Ⅱ-3-a-17, Ⅱ-3-a-18, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-h-3, Ⅱ-4-h-4, Ⅱ-4-h-6, Ⅱ-4-h-7, Ⅱ-4-h-9
客員助教授	宇野伸一郎	Ⅱ-3-a-23
客員助教授	村田健史	Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-20, Ⅱ-3-a-21, Ⅱ-3-a-22
助手	田村隆幸	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-a-22, Ⅱ-2-a-23, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-15, Ⅱ-3-a-18, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-d-11, Ⅱ-4-g-1, Ⅱ-4-g-8
助手	三浦 昭	Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-6, Ⅱ-3-a-8, Ⅱ-3-a-9, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-3-f-17, Ⅱ-3-f-19
宇宙航空プロジェクト研究員	宮下幸長	Ⅱ-2-c-8, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-19, Ⅱ-3-a-20, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-k-1
宇宙航空プロジェクト研究員	村上弘志	Ⅱ-2-a-10, Ⅱ-2-a-11, Ⅱ-2-a-28, Ⅱ-3-a-1, Ⅱ-3-a-2, Ⅱ-3-a-3, Ⅱ-3-a-10, Ⅱ-3-a-23, Ⅱ-4-g-1, Ⅱ-4-g-3, Ⅱ-4-g-4
研究員	田中健太郎	Ⅱ-2-c-9, Ⅱ-3-a-13

深宇宙探査センター（センター長：川口淳一郎）

教授	川口淳一郎	Ⅱ-2-d-13, Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-g-1, Ⅱ-2-g-2, Ⅱ-2-g-3, Ⅱ-2-g-4, Ⅱ-2-g-5, Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-g-7, Ⅱ-2-g-9, Ⅱ-2-g-10, Ⅱ-2-h-1, Ⅱ-2-h-6, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-93, Ⅱ-2-h-98, Ⅱ-2-j-19, Ⅱ-2-j-20, Ⅱ-2-j-52, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-3-b-1, Ⅱ-3-b-2, Ⅱ-3-b-3, Ⅱ-3-e-1, Ⅱ-3-e-2, Ⅱ-3-e-3, Ⅱ-3-e-4, Ⅱ-3-e-5, Ⅱ-3-e-6, Ⅱ-3-e-7, Ⅱ-3-e-8, Ⅱ-3-e-9, Ⅱ-3-g-21, Ⅱ-4-a-1, Ⅱ-4-c-2, Ⅱ-4-k-1, Ⅱ-4-o-2
----	-------	---

大気球観測センター（センター長：山上隆正）

教授	山上隆正	Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-6, Ⅱ-3-c-7, Ⅱ-3-c-8, Ⅱ-3-c-10, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-c-5, Ⅱ-4-m-1, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-3, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-5, Ⅱ-4-m-6, Ⅱ-4-m-8, Ⅱ-4-m-9, Ⅱ-4-m-10
教授	吉田哲也	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-7, Ⅱ-3-c-8, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-m-1, Ⅱ-4-m-3, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-5, Ⅱ-4-m-6, Ⅱ-4-m-9
助教授	齋藤芳隆	Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-6, Ⅱ-3-c-7, Ⅱ-3-c-8, Ⅱ-3-c-9, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-m-1, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-3, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-5, Ⅱ-4-m-6, Ⅱ-4-m-8
客員助教授	門倉 昭	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-4
助手	井筒直樹	Ⅱ-2-h-90, Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-5, Ⅱ-3-c-10, Ⅱ-4-c-5, Ⅱ-4-m-1, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-6, Ⅱ-4-m-7
助手	福家英之	Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-7, Ⅱ-3-c-10, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-m-1, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-3, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-5, Ⅱ-4-m-6, Ⅱ-4-m-9
研究員	秋田大輔	Ⅱ-2-h-11, Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-6, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-5, Ⅱ-4-m-7
研究員	河田二郎	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-6, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-4
研究員	野中直樹	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-3, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-7, Ⅱ-3-c-9, Ⅱ-3-c-11, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-6

宇宙航空プロジェクト研究員 山田和彦 II-2-h-11, II-2-h-12, II-3-c-1, II-3-c-2, II-3-c-3, II-3-c-4, II-3-c-8, II-4-m-1, II-4-m-2, II-4-m-4, II-4-m-5, II-4-m-6, II-4-m-7

対外協力室 (室長: 的川泰宣)

技術参与 的川泰宣 II-3-d-1, II-3-d-2, II-3-d-3

品質保証室 (室長: 川口淳一郎)

教授 川口淳一郎 II-2-d-13, II-2-d-16, II-2-g-1, II-2-g-2, II-2-g-3, II-2-g-4, II-2-g-5, II-2-g-6, II-2-g-7, II-2-g-9, II-2-g-10, II-2-h-1, II-2-h-6, II-2-h-84, II-2-h-93, II-2-h-98, II-2-j-19, II-2-j-20, II-2-j-52, II-2-j-83, II-3-b-1, II-3-b-2, II-3-b-3, II-3-e-1, II-3-e-2, II-3-e-3, II-3-e-4, II-3-e-5, II-3-e-6, II-3-e-7, II-3-e-8, II-3-e-9, II-3-g-21, II-4-a-1, II-4-c-2, II-4-k-1, II-4-o-2

主幹開発員 大串義雄 II-3-e-1, II-3-e-2, II-3-e-3, II-3-e-4, II-3-e-5, II-3-e-6, II-3-e-7, II-3-e-8, II-3-e-9

主任開発員 清水幸夫 II-2-h-21, II-2-h-22, II-2-h-69, II-2-h-70, II-2-h-73, II-3-e-1, II-3-e-2, II-3-e-3, II-3-e-4, II-3-e-5, II-3-e-6, II-3-e-7, II-3-e-8, II-3-g-25, II-3-g-26, II-3-g-27, II-3-g-28, II-3-g-29, II-3-g-30, II-3-g-31, II-3-g-32

システム開発部 (部長: 中部博雄)

部長 中部博雄 II-3-f-1, II-3-f-2, II-3-f-3, II-3-f-4, II-4-d-1, II-4-h-1

主幹開発員 加藤輝雄 II-3-f-12, II-3-f-13, II-3-f-14, II-3-f-15, II-3-f-16, II-3-f-20, II-4-h-9

主幹開発員 前田行雄

特任担当役 並木道義 II-3-c-1, II-3-c-2, II-3-c-4, II-4-m-4

特任担当役 杉山吉昭 II-3-f-5

主任開発員 齋藤 宏 II-4-a-1, II-4-h-1

主任開発員 周東晃四郎 II-3-a-9, II-4-h-1, II-4-h-8

主任開発員 周東三和子 II-3-f-6, II-3-f-7, II-3-f-8

主任開発員 松坂幸彦 II-3-c-1, II-3-c-2, II-3-c-4, II-4-m-1, II-4-m-2, II-4-m-3, II-4-m-4, II-4-m-6

主任開発員 鳥海道彦 II-3-c-1, II-3-c-2, II-3-c-4, II-4-m-2, II-4-m-3, II-4-m-4, II-4-m-8

主任開発員 山本悦子 II-3-a-8, II-3-a-9, II-3-f-9, II-3-f-10, II-3-f-11, II-3-f-12

主任開発員 吉田裕二 II-2-h-47, II-2-h-96

主任 新倉克比古 II-3-f-5

主任 小野 緑 II-3-f-21, II-3-f-22

主任 吉山京子 II-3-f-21, II-3-f-23

開発員 市川 勉 II-2-k-28, II-4-k-1

開発員 池永敏憲 II-2-k-4

開発員 長江朋子 II-2-k-6, II-2-k-7, II-2-k-38, II-4-h-1, II-4-h-8, II-4-j-9

開発員 永松弘行 II-2-c-25, II-2-j-73, II-4-i-1

開発員 山本高行 II-2-g-7, II-2-h-47

開発員 荒川 聡 II-2-h-47, II-2-h-81, II-2-h-96

開発員 飯島一征 II-3-c-1, II-3-c-2, II-3-c-3, II-3-c-4, II-3-c-8, II-3-c-10, II-4-m-1, II-4-m-3, II-4-m-6, II-4-m-7, II-4-m-8

開発員	下瀬 滋	Ⅱ-2-i-18, Ⅱ-2-i-20, Ⅱ-2-i-22, Ⅱ-2-i-24, Ⅱ-4-k-1
開発員	水田栄一	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-c-9, Ⅱ-4-m-2, Ⅱ-4-m-4, Ⅱ-4-m-6
開発員	餅原義孝	Ⅱ-4-h-1
開発員	関 妙子	Ⅱ-3-f-12, Ⅱ-3-f-13, Ⅱ-3-f-14, Ⅱ-3-f-15, Ⅱ-3-f-16, Ⅱ-4-h-9
開発員	長木明成	Ⅱ-3-a-4, Ⅱ-3-a-5, Ⅱ-3-a-9, Ⅱ-3-f-12, Ⅱ-3-f-17, Ⅱ-3-f-18, Ⅱ-3-f-19, Ⅱ-3-f-20

技術開発部（部長：長島隆一）

部長	長島隆一	
技術職員	平山昇司	
主幹開発員	廣川英治	Ⅱ-2-h-6, Ⅱ-2-h-7, Ⅱ-2-j-46, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-48, Ⅱ-2-j-51, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-d-15, Ⅱ-4-d-16, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
主幹開発員	大島 勉	
主幹開発員	安田誠一	Ⅱ-2-h-2, Ⅱ-2-h-3, Ⅱ-2-h-4, Ⅱ-2-h-39, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-3-g-18, Ⅱ-3-g-19
特任担当役	瀬尾基治	Ⅱ-3-c-1, Ⅱ-3-c-2, Ⅱ-3-c-4, Ⅱ-3-g-22, Ⅱ-4-m-3
主任開発員	鎌田幸男	Ⅱ-2-k-15, Ⅱ-2-k-16, Ⅱ-2-k-23, Ⅱ-3-g-1, Ⅱ-3-g-2, Ⅱ-3-g-3, Ⅱ-3-g-4, Ⅱ-3-g-5, Ⅱ-3-g-6, Ⅱ-3-g-7, Ⅱ-3-g-8, Ⅱ-3-g-9, Ⅱ-3-g-10, Ⅱ-3-g-11, Ⅱ-4-k-1
主任開発員	太刀川純孝	Ⅱ-2-g-11, Ⅱ-2-j-59, Ⅱ-2-j-61, Ⅱ-2-j-62, Ⅱ-2-j-63, Ⅱ-2-j-64, Ⅱ-2-j-65, Ⅱ-2-j-66, Ⅱ-3-g-10, Ⅱ-3-g-11, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
主任開発員	本田秀之	Ⅱ-3-a-4, Ⅱ-3-a-5, Ⅱ-3-a-9, Ⅱ-3-f-17, Ⅱ-3-f-18, Ⅱ-3-f-19, Ⅱ-3-f-20, Ⅱ-3-g-14, Ⅱ-3-g-15, Ⅱ-4-m-7
主任開発員	富澤利夫	Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-i-18, Ⅱ-2-i-19, Ⅱ-2-i-22, Ⅱ-2-i-24
主任開発員	小林清和	Ⅱ-3-g-18
主任開発員	橋本保成	Ⅱ-2-k-25, Ⅱ-2-k-47, Ⅱ-3-g-16, Ⅱ-3-g-17
主任開発員	志田真樹	Ⅱ-2-g-6, Ⅱ-2-g-7, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-3-g-18, Ⅱ-3-g-19, Ⅱ-3-g-20, Ⅱ-3-g-21, Ⅱ-4-d-1, Ⅱ-4-h-1, Ⅱ-4-k-1
主任開発員	徳永好志	Ⅱ-2-h-81
主任開発員	篠原季次	Ⅱ-2-h-22
主任開発員	清水幸夫	Ⅱ-2-h-21, Ⅱ-2-h-22, Ⅱ-2-h-69, Ⅱ-2-h-70, Ⅱ-2-h-73, Ⅱ-3-e-1, Ⅱ-3-e-2, Ⅱ-3-e-3, Ⅱ-3-e-4, Ⅱ-3-e-5, Ⅱ-3-e-6, Ⅱ-3-e-7, Ⅱ-3-e-8, Ⅱ-3-g-25, Ⅱ-3-g-26, Ⅱ-3-g-27, Ⅱ-3-g-28, Ⅱ-3-g-29, Ⅱ-3-g-30, Ⅱ-3-g-31, Ⅱ-3-g-32
開発員	川原康介	Ⅱ-2-j-71, Ⅱ-2-k-15, Ⅱ-3-g-1, Ⅱ-3-g-2, Ⅱ-3-g-4, Ⅱ-3-g-5, Ⅱ-3-g-6, Ⅱ-3-g-8, Ⅱ-3-g-9, Ⅱ-3-g-10, Ⅱ-3-g-11, Ⅱ-4-k-1
開発員	岸本直子	Ⅱ-2-i-5, Ⅱ-2-i-6, Ⅱ-2-i-12
開発員	鷗野将年	Ⅱ-2-j-75, Ⅱ-2-j-76, Ⅱ-2-j-77, Ⅱ-2-j-78, Ⅱ-2-j-79, Ⅱ-2-j-80, Ⅱ-2-j-81, Ⅱ-2-j-82, Ⅱ-2-j-83, Ⅱ-2-j-84, Ⅱ-3-g-12, Ⅱ-3-g-13, Ⅱ-4-i-9, Ⅱ-4-i-10
開発員	坂井智彦	Ⅱ-2-c-25, Ⅱ-2-j-69, Ⅱ-2-j-73, Ⅱ-2-k-2, Ⅱ-2-k-33, Ⅱ-2-k-34, Ⅱ-2-k-36, Ⅱ-3-g-10, Ⅱ-3-g-11, Ⅱ-4-i-1
開発員	成田伸一郎	Ⅱ-2-j-24, Ⅱ-2-j-47, Ⅱ-2-j-50
開発員	福吉美由子	Ⅱ-2-g-15
開発員	長谷川克也	Ⅱ-2-i-19
開発員	鈴木直洋	Ⅱ-2-h-39, Ⅱ-2-h-44, Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-3-g-18,

		Ⅱ-3-g-19, Ⅱ-3-g-20
開発員	中塚潤一	Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-2-i-15, Ⅱ-3-g-18, Ⅱ-4-h-1
開発員	八木下剛	Ⅱ-2-h-44, Ⅱ-2-h-81, Ⅱ-2-h-84, Ⅱ-2-h-85, Ⅱ-2-h-93, Ⅱ-3-g-18, Ⅱ-3-g-19, Ⅱ-3-g-20
開発員	狩谷健一	
開発員	高根沢英城	
開発員	伊藤文成	Ⅱ-2-i-22, Ⅱ-2-i-24, Ⅱ-4-k-1
開発員	入門朋子	Ⅱ-2-h-47, Ⅱ-3-g-23, Ⅱ-3-g-24
開発員	長谷川直	Ⅱ-2-d-16, Ⅱ-2-d-37, Ⅱ-2-d-38, Ⅱ-2-d-39, Ⅱ-2-d-43, Ⅱ-2-d-79, Ⅱ-2-d-127, Ⅱ-2-d-128, Ⅱ-4-d-17, Ⅱ-4-d-18
開発員	矢田 達	Ⅱ-2-d-11, Ⅱ-2-d-12, Ⅱ-2-d-40
開発員	廣谷智成	

月探査技術開発室（室長：滝澤悦貞）

室 長	滝澤悦貞	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-2-d-75, Ⅱ-3-h-1, Ⅱ-3-h-2, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-4, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-f-7
主任開発員	宮原 啓	Ⅱ-2-d-77, Ⅱ-3-h-1, Ⅱ-3-h-2

SELENE プロジェクトチーム（プロジェクトマネージャ：滝澤悦貞）

プロジェクトマネージャ	滝澤悦貞	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-2-d-75, Ⅱ-3-h-1, Ⅱ-3-h-2, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-4, Ⅱ-4-f-5, Ⅱ-4-f-6, Ⅱ-4-f-7
サブマネージャ	原 英雄	Ⅱ-4-f-4, Ⅱ-4-f-5
サブマネージャ	高橋道夫	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3, Ⅱ-4-f-7
主幹研究員	武田 弘	Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-102
研究員	横田康弘	Ⅱ-2-d-5, Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-98, Ⅱ-2-d-99, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-2-d-108, Ⅱ-2-d-111, Ⅱ-4-e-2, Ⅱ-4-e-4, Ⅱ-4-f-5
研究員	山本幸生	Ⅱ-2-d-14, Ⅱ-2-d-15, Ⅱ-2-d-17, Ⅱ-2-d-18, Ⅱ-2-d-19, Ⅱ-2-d-20, Ⅱ-2-d-21, Ⅱ-2-d-24, Ⅱ-2-d-25, Ⅱ-2-d-31, Ⅱ-2-d-112, Ⅱ-2-d-113, Ⅱ-2-d-114, Ⅱ-2-d-117, Ⅱ-2-d-123, Ⅱ-2-d-124, Ⅱ-4-f-5
主幹開発員	矢嶋季郎	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
主幹開発員	吉田恭治	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
主任開発員	岩名泰典	Ⅱ-4-f-4
主任開発員	大嶽久志	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-3
主任開発員	小西久弘	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3
主任開発員	佐々木健	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-2-d-75, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
主任開発員	佐藤 章	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
主任開発員	祖父江真一	Ⅱ-4-f-5
主任開発員	高野 裕	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2
主任開発員	田山 聡	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2
主任開発員	中澤 暁	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3
主任開発員	前島弘則	Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-3
主任開発員	松井 快	Ⅱ-2-d-105, Ⅱ-3-h-1, Ⅱ-3-h-2, Ⅱ-4-f-5

主任開発員	南野浩之	Ⅱ-2-d-74, Ⅱ-4-f-1, Ⅱ-4-f-2, Ⅱ-4-f-7
主任開発員	宮原 啓	Ⅱ-2-d-77, Ⅱ-3-h-1, Ⅱ-3-h-2
主任開発員	山田 敦	Ⅱ-4-f-4
開発員	奥村隼人	Ⅱ-4-f-5
開発員	小野寺勝彦	Ⅱ-4-f-5
開発員	鳥居雅也	Ⅱ-2-d-80, Ⅱ-2-d-81, Ⅱ-2-d-82, Ⅱ-2-d-83, Ⅱ-2-d-84, Ⅱ-2-d-85, Ⅱ-2-d-86, Ⅱ-2-d-87, Ⅱ-2-d-88, Ⅱ-2-d-89, Ⅱ-2-d-90, Ⅱ-2-d-91, Ⅱ-2-d-97, Ⅱ-2-d-101, Ⅱ-2-d-106, Ⅱ-4-f-5
開発員	二ノ宮賢治	Ⅱ-4-f-4
開発員	野村信人	Ⅱ-4-f-4
開発員	星野宏和	Ⅱ-4-f-5
開発員	米倉克英	Ⅱ-4-f-4, Ⅱ-4-f-6

ISS 科学プロジェクト室 (室長: 依田眞一)

教授	依田眞一	Ⅱ-4-n-2, Ⅱ-4-n-3, Ⅱ-4-n-7
教授	石岡憲昭	
助教授	足立 聡	Ⅱ-4-n-7, Ⅱ-4-n-8
助教授	石川毅彦	Ⅱ-2-j-57, Ⅱ-4-n-3, Ⅱ-4-n-4, Ⅱ-4-n-5, Ⅱ-4-n-6
助手	東端 晃	
助手	正木匡彦	
主幹研究員	木下恭一	
主幹研究員	松岡 勝	Ⅱ-4-n-1
主幹研究員	山本和男	
主幹研究員	余野建定	
主任研究員	高柳昌弘	Ⅱ-4-n-7
主任研究員	大森克徳	
主任研究員	河本 望	
主任研究員	Paradis Paul	Ⅱ-4-n-3, Ⅱ-4-n-6
主任研究員	山崎 丘	
主任研究員	吉崎 泉	
主任研究員	荒井康智	
主任研究員	松本 聡	
研究員	鎌田源司	
研究員	菊池健一	
研究員	高橋千賀子	
主幹開発員	佐藤亮太	
主任開発員	植田稔晃	
主任開発員	川崎一義	Ⅱ-4-n-1
主任開発員	菊池政雄	
主任開発員	中野 完	
主任開発員	西堀俊幸	Ⅱ-2-d-35, Ⅱ-2-d-95
主任開発員	夏井坂誠	
主任開発員	藤本信義	
主任開発員	水越和夫	

主任開発員	上野史郎	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-4-n-1
主任開発員	小川志保	
開発員	石川真木	Ⅱ-4-n-1
開発員	富田 洋	Ⅱ-2-a-1, Ⅱ-2-j-2, Ⅱ-4-n-1
開発員	永松愛子	
開発員	西川和香	
	大平博昭	